

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	大学での学びの質を高めるためのスタディ・スキルズ『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』を身につけることができ、自らが積極的に課題を探求し、他者と相互に学び合う関係を築くことができることを目標としている。その集大成として、個人によるスライドを使ったプレゼンテーションをプロジェクトワークの結果として全員に披露してもらい、すべての学生が発表者の評価をGoogleフォームを使って行い、コメントなども寄せて、発表者にはその結果を分析してもらうことにしている。自学を充実させるテキストも副教材として使用した。後期には、ゲストティーチャーもお招きして、さらにバラエティに富んだ授業を展開していく予定である。特質すべき受講動機は①（全員）以外に、③④⑥がそれぞれ1名ずついた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績は、A67%B21%C6%で正規分布ではなかった。2023年度は、A35%,B4.2%,C15%J8%と正規分布していた。今年の学生は意欲的で優秀なプレゼンをする学生が多かったほか、最後に回収する自学の副教材でも、ほぼ全員が大変誠意のある丁寧な記述を行っていたため、差をつけることができなくなってしまったためである。Aの中では、プレゼンテーションの評価によって多少の差はあるのだが、皆それぞれにいいプレゼンテーションで、そこで大きな差をつけるには、ループリックを作成するにしても、大変主観的な判断となってしまう。また、ほぼ毎回復習プリントを配布して採点するのであるが、こちらもほぼ全員がとても誠意のある回答をするために、優劣がつけにくい、という状況があったからである。今年も、プレゼンの配点の中で、レジュメと振り返りレポートのループリックを明確にして差をつけたが、優劣に差が出る結果となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	基本的なスタディスキルズを講義と自学の教材で学習したという点ではDP1は達成しており、またDP3,4においても以下に紹介する学生の自由記述の一部より達成されたと思う。「達成度自己評価」は(1)4.5(2)4.8(3)4.7(4)4.5(5)4.6(6)4.7(7)4.6(8)4.9(9)4.7(10)4.3であり、授業で表彰をいただいた去年の(1)(2)(3)(9)(10)4.4(4)(5)(6)(7)4.2(8)4.6とあまり変化はなかった。昨昨年は(1)4.8(2)4.8(3)4.7(4)4.6(5)4.6(6)4.6(7)4.7(8)4.9(9)4.7(10)4.7であった。特に良かった昨年同様(8)が「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目であり、私は他の授業ではこの項目で高評価を取るのが授業の内容上難しいので、この初年次セミナーにおいて、グループディスカッションや発表の場を多く設け、学生が満足に感じてくれたのであれば、嬉しいし、他の授業でももっと積極的に自由討論の時間などを設けてみようと思う。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は、(1)4.7(2)4.9(3)4.7(4)4.7(5)4.7であった。昨年は(1)(2)4.0(3)(4)(5)5.0であった。昨昨年は(1)4.8(2)4.7(3)4.7(4)4.8(5)4.6であった。「プレゼンの準備や練習を沢山しました」「みんなの前でプレゼンをし、また、人のプレゼンを聴き、とてもいい経験になりました」など、授業自体とプレゼンでの学びについてたくさん成長したことをコメントしてくれる学生が多かった。また、空き時間などに使用していたMy Career Noteという教材に関して今回は特に質問しなかったがそれぞれ誠意のあるノートを仕上げて提出していた。ノートに関して「自分が何の仕事に就きたいのか考えるためにインターネットで検索した」などと自発的に勉強したことが伺えるコメントもあった。ただ取り組ませるだけでなく、効率よくグループワークにつなげたり、内容を指示したりと精査が必要な副教材なので私も教材研究をもっとしたいと思う。またクラスメイトの皆が優しかった、楽しかった、などの温かい雰囲気を感じさせるコメントもあったのは、アクティブラーニングが多く生徒の自主性に任せることが多い授業なので雰囲気作りに成功した証であり、安心した。
7. 総括的评价と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的评价と課題をお願いします。	この授業では最初で一回で年間目標を書いてもらう。初回の授業でそれぞれが時間をかけて決めて、記述してくれた年間目標をこちらで回収、確認してから、最後の授業で返却し、到達度を確認してもらってからまた回収した。学生には、後期の最後にまた返却するように伝えてある。その時には、1年をもう一度振り返らせて、3年後の自分に手紙を書いてもらう予定である。それを卒業式まで私がタイムカプセルに入れて持っておき返却する予定だ。学生たちには、この初年次セミナーの授業を通して、単なるスタディ・スキルズを学ぶだけでなく、大学に来る意義や、自分の目標を意識し、達成するためにはどのように学生生活を過ごせばいいのか考えてもらいたいと思う。学生は、授業中に寝ることもなく、熱心に前を向いて聞いてくれたし、こちらが出す課題には毎回とても熱心に記入し、解答してくれていた。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	入学直後の科目で、アドバイザーとして少人数で相対して授業をすることができるため、全ての受講生が授業内容を理解しているかを慎重に確認しながら、授業を進めた。例えば、ノートの取り方など、常識的だと思えるようなことであっても、できない可能性があるという前提で丁寧に説明を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された		やや達成されなかった	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	レポートの提出が遅れた学生が1名、提出をしなかった学生が1名いた。このようなことは、これまではなかったことであり、今後の課題としたい。課題を出している週と出していない週があるため、学生がつい忘れてしまうようであり、毎週、課題を出すようにして、課題があるのが当然だというような意識付けをしたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。前述のとおり、大学に入学したばかりで分からないことの方が多い学生のためには、このような科目で学生を多面的に指導することが重要である。ただ、今回は基礎的なことを中心に教授したため、残念ながら当初予定していた論文の書き方については、十分な時間を確保することができなかった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	体系的に組み立てた授業を展開していたが、それを最初に学生にきちんと説明していなかったため、一部の学生は毎回の授業の関係性を理解していなかった。次回は、最初の授業で全体の流れを説明しつつ、各回の授業の意義の説明を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	レポートの提出が遅れたり、出さなかったりした学生がいたのは、私の大きな反省点である。それまでは、期限までに出すのが当然のことと考えて、そのような学生がいることは想定していなかった。今回のことを受けて、二度と同じことが発生しないように、十分過ぎるくらいに提出について何度も促したい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1、初年次セミナーⅠは高等学校教育から大学教育への円滑な移行を図るための教育として位置づける授業である。本授業は、まず大学での学習方法を理解してもらうものである。大学での学習には不可欠な要素である「読む」「書く」「話す」「考える」「文献を探す」のアカデミックスキルの基礎を修得することを目指す。 2、授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。学習者の関心事を新たに加えた。 3、「知へのステップ」教材に沿って授業を進めてきたが、学生に社会への関心度を高めてもらうために、毎回新聞記事を中心に発表練習した。さらに「女性の品格」という書物を学習したことによって、学生に主体的に司会、発表させ、自主性を引き起こすようにしている。 4、学生全員に毎回レジュメや感想文、レポートを書かせたりし学習意識を持たせ技法を高めるようにしてきた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は90点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベル（概ね90点以上として評価の作成）に達した。目標別にみると、知識理解に関しては90％、意欲関心は95％であった。与えられた課題を解決する際に身に付けられた知識を応用することができたことと、問題点を分析、整理することが身に付けることができたことがこのような結果につながった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「総合人間科学科目」であるが、「専門基礎科目」を繋ぐ要の位置にあり、必修科目である。授業準備の欄で指摘したように大学での学習の基礎であるため、多様な課題に応えるように工夫し、学生もよい成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 DP、行動目標から見ての内容的妥当性 成績評価から知識理解、意欲関心に関する達成度が高かったため、内容的には妥当であったと考える。 まとめ、以上から、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見を纏め、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が5.0と高かった。復習の時間が想定より少なかったことは反省点である。次年度に向けては、第一に意識関心事を具体的にします上で、授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門基礎科目の入り口に当たる本科目の位置付けから、基礎的知識の形成については、達成できたと思う。 授業過程を振り返ってみたとき、復習予習課題を意識的に提示することを加えていきたい。また学生からの意見については、十分に取り入れ、次年度に改善を図りたい。

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をみると「必修科目である」60%、「関心のある内容である」20%、「単位数を確保する」20%となっており、履修者が「初年次セミナーⅠ」では、何を学ぶかについて、よく理解できていることが分かる。履修者のニーズに合わせて、良い教育をすることができるよう工夫したい。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目に発表をしてもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は93.9点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解と意欲関心及び態度に関しては、それぞれ100%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、意欲関心、態度の観点での自己評価に差がないことが示された。 図書館とインターネットの利用については、それぞれ20%で、さらに指導することを考えている。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①D P、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、意欲関心、態度に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「初年次セミナーⅠ」であるが、「専門演習科目」と「専門研究科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、各項目については、評価が良かった。特に「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」こと、「説明は理解しやすいものであった」こと、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」ことに関しては、それぞれ100%であり、評価は良かった。次年度に向けては、学生がもっと積極的に参加できる機会・環境を作っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「専門演習科目」と「卒業研究科目」をつなぐ要の位置にあるとの位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、意欲関心、態度の力を高めるために、授業中に課題を行う時間を増やすようにしたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度授業構成としては、例年通り大学・学科オリエンテーション、在学生（担当教員ゼミ生）による授業・学生生活オリエンテーション（留学・研修含む）、そして社会人基礎力の養成の3つのセクションで展開した。学生には、授業毎に感想・疑問に思ったこと・質問などを記したコメントカードを提出させ、担当教員が回答した。また、社会人基礎力学習内容ではゲーム性を取り入れた内容や上級生とのディスカッションの機会を設けるなど、コミュニケーション構築にも力を入れながら大学での学習意欲向上・維持を目指した授業内等とするべく努力をした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケート結果の到達自己評価から上記の妥当性はあると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケート結果の到達自己評価、積極性から上記の妥当性はあると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1年生対象ということもあり、その妥当性は検討する必要があるが、アンケート内容から目的は達成できたと思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今後も今期の達成、反省点の再検証を継続的に行う必要はあると思われる。課題は例年同様ではあるが、授業時の学生の反応の読み取りとディスカッション方法に配慮が必要である。1年次だけではなく、全学年に共通する課題であるが、本学科学生はディスカッション能力、プレゼンテーション能力が総じて高いとはいえないため、1年次より、興味のある話題・テーマを提示、ディスカッション能力の向上につなげるとともに、大学生活への適応性を高めたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、新入生を対象として大学での授業の受け方、学習の取り組み方などを学ぶことから、この点を入学時にできるだけ丁寧に、かつわかりやすく説明していく必要がある。大学での学習は自ら主体的に取り組まなければならないこと、また、高校までの学習と異なり、必ずしも正解が用意されているとは限らないことを繰り返し説明していくことで、大学での学習に慣れて頂けるように工夫している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	DP項目において3.3～4.6をマークしていることが根拠として挙げられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は必修科目であり、大学での学習の取り組み方、図書館等での情報収集の方法やレポート作成方法などを学ぶことから内容的には妥当であると考え る。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においてすべての項目で4.4以上の評価を達成しているため、本科目が大学での学習の導入科目としての位置づけとしての役割を全うできたの ではないかと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今後もさらに授業の質を高めるため、随時授業内容を検討していきたいと考えている。

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2回目の授業で残り13回分のスケジュールを示して、最終的にレポート作りとそれをPPTで発表することを目的として、それが無理なく達成できるように段階を追って達成できるようにしている。また、シラバスでは標準的レベルとして、「4.グループ学習において、目標達成にむけて他者と協力し行動できる」と掲げている。それを可能にするために、入学当初の緊張感を解きほぐし、失敗してもいいんだという快適な学習集団作りを目指した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講生7名、授業評価アンケート回答者7名である。シラバスの標準的達成レベルでは、「1.主体的に学ぶためのスタディ・スキルズ『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』を鍛錬・強化できる」から「6.自らの行動変容の必要性に気づき、修正へと繋げることができる」までの6項目があり、総論的に「大学生に相応しいレベルの「読み」「書き」ができる」とされている。これを達成するために、最終的にはレポートを作成せることを目標として、そこに至るまでの14回の授業（初回は全体指導）のスケジュールを二回目授業で示して、細かい段階を設けて、達成しやすいように説明した。受講動機は①必修授業である（100％）である。学習量の評価（予復習時間）の予習時間については、④4，5回以上が計5名、復習は①1回と②2，3回で計4名が一番大きな層であり、予習型の学習をしていた受講生が多かった。成績を確率で示すと、A（71）、B（29）で100％である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価は10項目の平均が3.91である。（2）知識を確認、修正したり、新たに得ることができたが、最高の4.4であり、（10）職業選択の参考になったが最低の3.4となった。従って知識理解（DP1）は達成されたと考える。以上のことから、カリキュラムマップ上の一年前期にこの科目を置くことは妥当と考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価の記述の部では、7名が書いていた。4. 学習量の評価（4）授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、1. 課題が多かったのもできなかった、2. 課外で十分に感じていたから、3. 授業中に出された課題をするのに、精一杯になってしまったから、4. 課題をすることで目標を達成できたから、5. そもそも授業の課題が多かったから。次に4. 学習量の評価（4）授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として、1. 授業に関するについて調べたりした、2. レポート作成に取り組んだとなっている。授業の質評価は5項目の平均が4.36である。入学最初の学期の総合人間科学科目であり、専門科目ではない、高大接続的な授業として、無理がない課題の質と量を、受講学生に応じて調整していく必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体を通して達成できたと考える。授業評価では見えないが、授業期間最後の個別面談では、学期最初に人前では緊張して話せないと言っていた複数の学生が、一定の内容があるレポートを完成させ、それをPPTで発表できるようになった。聞いている学生を見て堂々と発表できるところまで伸びたので、本人たちも達成感を感じている。課題としては、課題量については、多すぎるとの意見はなかったが、課題が多いとの意見は複数あり、受講生の適性・準備性を見て、調整をしていくことが必要と考える。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	観光文化学科
氏名	角谷 尚久

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	高校と大学との授業についての違いを理解させるとともに、スムーズに大学生活が開始できるよう授業以外の生活習慣などにも言及しながら、4年間に成長できる学生生活を送れるように指導を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達度自己評価において平均値が4.8～5.0であり、目標については達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価において平均値が4.8～5.0であり、目標については達成できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗状況により、内容を偏移させていったことにより、授業により濃淡がでたパートがあった。次回は平準化できるようにしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	おおむね問題なく授業進行できたと思料する。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科・観光文化学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（旧約聖書）	1	前期	必修	はい	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は、本学の建学の精神である「感恩奉仕」の土台となる聖書理解が目的である。今期は久しぶりに対面授業に戻ったため、旧約聖書の基礎を体験的に習得できるよう、聖書を自ら開き声に出して輪読すること、紙芝居や絵本の読み聞かせ、DVD鑑賞、ディスカッションなどを取り入れた。学期ごとに行っている教会訪問も再開し、チャペルへの参加やミッションデーのレポートなどを評価に取り入れ、授業外でもキリスト教に触れる体験の機会を促した。 建学の精神に直結する大切な学びとなるため、毎回の授業に記入するクラスポートフォリオをはじめ、チャペルにおいてもポートフォリオ提出を必須とした。 今後は、さらに建学の精神に日常的に触れていく機会、聖書を読む機会を予習・復習などに取り入れる工夫を行いたい。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては4.2ポイントであった。事象を理解する視点や考え方取得は4.2ポイント、自分なりの目標達成は4.0ポイントであった。また、他の到達度自己評価も平均4.2ポイントであった。トータルの成績の平均値は約80%以上、遠隔チャペルのポートフォリオ提出率は90%以上であった。以上により、「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の世界観を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。 キリスト教学(旧約聖書)はキリスト教の導入なので、今後、キリスト教学（新約聖書）の中で、前期で学んだ知識をもとに、発展させていくような展開が必要とされる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となるキリスト教を学ぶ「必修」科目である。しかし、初めから興味を持って受講する学生はわずかであるため、キリスト教に全く興味のない学生も受講しているため、動機付けに工夫が必要であるが、総合的に全体として一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考え る。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、行動目標に沿い、学問としての旧約聖書の講義による学びの他、毎週のチャペル参加を促し、授業内で学ぶ事の出来ないキリスト教の源泉に触れるなど、内容的には妥当であったと考える。 自由記述には、複数の「楽しく学べた」との回答があり、今後も引き続き、慣れない聖書の学びへの導入として、多様な教材に触れ視野を広げながら、学生の生活に結びつける視点を大切にしたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎回のクラスポートフォリオで学生の学びの現状をつかみ、チャペルポートフォリオの提出により、学生のチャペル参加の意欲など、全体像をつかむことが出来た。 本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要であるため、わかりやすい説明を心がけた。授業の質評価に関しては(1)評価基準については4.2、(2)課題については4.2、(3)「説明は理解しやすいものだった」は4.3、(4)授業の質評価の平均値は4.2ポイントであった。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.1、(5)学生の質問については4.0ポイントであったが、今後よりアクティブラーニングの手法を展開し、学生一人一人について把握する取り組みを行いたい。また、情報の利用に関しても、調べ学習を再開する予定である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の土台を学ぶ科目であるため、学期始めにキリスト教に関心や興味のない学生たちにも主体的に学習してもらうための工夫が必要である。受け身的に知識を得るだけではなく、学生が興味を抱いたテーマについて取り上げてディスカッションを行うことや、絵本・紙芝居の読み聞かせを学生自らが実践することなどを入れ、授業を造り上げる一員としての自覚を養うように促している。 授業の最後に記入して振り返りを行うポートフォリオに加え、遠隔チャペルの出席を促す「チャペルポートフォリオ」を導入し、学生のチャペルへの積極的姿勢を伺う材料とした。ようやく対面授業が再開したので、さらなるアクティブラーニングを検討し、キリスト教学の学びを多角的に深められるような指導をしていきたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科・観光文化学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	必修科目のとして「健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系」の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。また、健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画では教科書等の予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。 出欠アンケートで、まとめと質問を設け、学生の理解度を高めた。その結果、授業で内容を理解しようという姿勢が全授業を繰り返すに従って向上した。授講の理由は必修科目であるが87%であった。しかしながら、この科目に関心があると答えた学生が7%と低いが、健康関連科目に関心が低いとは感じなかった。必須科目の場合、学生の各科目に対する位置付けがどのように数値に現れるか検討すべきである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81±8.8点で、再試対象は4名であった。 全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは13名（31名中、68％）であった。 目標達成できたと答えた総数は51人（54名中、94％）を示した。 「達成度」の平均値は全項目で3.4-4.1の間にあり、評価は高かったと言える。（2）知識獲得が最も高く、（10）職業選択の参考が低い値であった。 「授業の質の評価」は全て平均が3.6-4.2でやはり高かったと考える。（2）課題が明確が高く、（4）意見の発表の機会の値が低い。 「学習量の評価」では、（1）準備なしが25人（46％）で半数以上は予習をしている。（4）課題以外の学習は54人全員が取り組んでいた。 「情報利用」では、（1）参考にしない32人（59％）、（2）計画を立てなかったが45（8％）と低く、シラバス利用9、オリテンに沿う11と低く、検討をしなければならない。 「図書館の利用」は12名、データベース利用9名、インターネット利用26名と、メディアを利用するものが多数で、図書館利用は少ないと言える。 欠席する者が少なく全員が積極的に受講していたが、今後、より関心を高め参加しやすい方法を考えたい。 また、教科書以外の資料はインターネットを利用し、配布やアンケートの回収もネット上で行うことができた。 自由記述の評価での記述が少なく、悪い評価は見当たらなかった。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性について 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めたことから、内容的には英語学科の学生にも妥当な内容であったと考えている。 ②D P, 行動目標からみでの内容的妥当性について 成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高まれば、もう少し深く進める事も出来ると思う。 ③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多い中、「学習到達度の自己評価」は高く、知識取得できたことも授業目標に沿っており、人文の学生に妥当な内容と判断した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、予習を全くしなかった者が大半で残念な結果と言える。 毎回授業の復習、興味関心をアンケートしたことがこのような結果に結びついていないと思われる。 シラバスを参考にしなかった者、授業計画を立てなかった者を減らすことも今後の改善点である。 オリエンテーションの十分な説明をし心がけているが、シラバスの利用に影響しているかもしれない。 次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、理解度チェックでまとめと調べを提示し、学習を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。 授業過程を振り返って見たとき、予習課題の提示などで改善を図りたい。 以上から、毎回のねらいを具体的に提示し、毎時間に、授業の内容について、理解度チェック、自己調べ、問題解答などを駆使したい。 授業評価から、学生の意見を取り入れ、更なる改善を試みたいと思う。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科・観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人文学入門	1	前期	必修	はい	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	リレー講座で複数の教員のさまざまな視点から人文学を知るというものであるため、なるべくテーマが重ならないように担当者間で調整を行った。学生の自由意見を見ても、それが功を奏したようで、受講生の視野の広がりにつながったようである。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	大半の受講生が「秀」の評価であった。毎回のレポートの評価を見ても、満点を取っている学生が大半であり、授業をよく理解していることが分かる。毎回、講師が交代するということで学生が緊張感とともに、知的刺激を感じていたのであらうと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。受講学生のコメントを読んでも、入学したばかりで何も分からない中で、この科目は4年間の学習の方向について貴重な情報源となったようである。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度以上に、リレー講座の講師はバラエティに富んだテーマを選んだため、学生のコメントを読んでも、この授業で大変満足していたことがよく分かる。来年度の新入生は、この科目を履修しないが、これまでのこの科目において蓄積したリレー講座の進め方については、他の科目にも応用できるように情報共有をしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	2名を除いて、この科目の単位の取得ができていた。次年度には新カリキュラムとなり、「人文学入門」は開講されない。そのため単位の取得ができなかった2名のみの授業となる。この2名が今度こそ単位の取得ができるように、新担当者との引継ぎをしっかりと行いたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科・観光文化学科
氏名	松田 憲

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ところと人間	2	前期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	基本は対面形式で講義を行い、講師の学会参加による出張に伴い、1回分の講義をオンデマンドで行った。講義では、先行研究での結果を学生に予想させたり、実験デモや動画視聴を多用することで、学生の受講意欲と理解度の向上を試みた。 講義配布資料を書き込み式にすることで内容理解を促した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学期末試験や毎回のレポートを見る限りは、講義内容をしっかり理解している学生とそうでない学生とに二極化している。レポートでも、時間内に終わらず次週に回した内容を書いてくる学生もいたことから、講義に参加せずに配布資料だけを見てレポートを書いたものとする。今後は、課題のあり方について考える必要がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講生は講義内容におおむね満足していると判断できる。
---	-----------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	特に課題は無かった。
--	-------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	講義に出席していた学生からは良い評価を得られたと思う。
------------------------------	------------------------------------

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科・観光文化学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学	1	前期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目ではあるが、受講した学生（英語学科・観光文化学科）にとってはあまり馴染みのない内容であり、学生たちにとってもイメージしにくい科目であることは否めない。そのため日々の学生の生活と法が随所で関係していることを説明し、具体的事例を盛り込みながら授業を行うことを心掛けた。 ②馴染みのない専門用語の学習や理論考察が必要である。そこで毎回配るレジメの最後に必ず本日の講義のポイントとなる部分をまとめた問題を入れ、学生に解かせることで知識理解を定着させるようにした。 ③8コマ目に中間テストを実施し、学生たちの学習状況を確認するようにした。同時に学生たちに復習の必要性を認識させた。 ④2009年に導入された裁判員制度についての広報映画および裁判員制度に関連する教材を視聴し、グループワークを行った。この授業を通し、将来参加する可能性のある裁判員制度への理解とその重要性を認識してもらった。また現代的課題でもある裁判員制度について学生たちに調べさせ、その是非についての意見を書かせた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、英語学科と観光文化学科併せ80点であった。80点を理想的レベルとして試験を作成したが、それぞれのクラスの平均値がそれに達したことは、知識理解の面からはみても目標は達成されたといえる。ただ追再試の対象となった学生が幾人か出てしまったことは、知識理解について完全に達成されたとは言い難い結果となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は選択科目ではあるが、一般教育科目の一つであり、DP1に関わるものである。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 到達度自己評価において「自分なりの目標を達成した」と回答した学生の平均値は4.0、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と回答した学生の平均値は4.3であった。「受講動機」の回答をみると、「関心のある内容である」と回答した学生が全体の半分であったが、逆に言えば残り半分の学生については最初から本科目に関心があり受講したというわけではなかったようである。それでも授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として「気になったことを調べたりした」「関連する動画を他にも視聴した」という回答があった。これは、授業を通して法学の内容に関心を持ち始めた学生がいたことの証左であり、個人的には喜ばしいことであった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「法学」というと世間一般的に「難しいもの」ととらえられがちな科目であるが、授業評価において「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という回答が、平均値4.3と前年と比較してもかなり高かった。これは裁判員制度の映像を用いて各グループに分かれて討論させ、協力して判決文を記述させたグループワークがかなり効果的であったと考えられる。アクティブラーニングの一環として近年授業において取り入れているグループワークだが、他と比べても学生の意欲が高く、さまざまな意見を拝見することができた。映像をつかった講義は効果的であるため、今後他の講義でも用いていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「法学」の授業においては、昨年度に引き続き、通常の座学形式の講義に加え、毎回の授業の復習や動画を用いたグループワークなどを取り入れた。結果的に成績評価や授業満足度の平均値がいずれもこちらの目標値を超えたことは、本科目のDP「知識理解」の面を達成することができたといえる。先述した模擬裁判や映像をつかった講義は好評であり、今後も活用していきたい。

学科	英語学科・観光文化学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	はい	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は初めて中国語を学習する学生を対象とし、中国語の入門知識をマスターすることを目標としています。授業の実施にあたり大切にしていることは2つありました。1つは、学習者に中国語の特徴と学習方法を把握してもらうこと、もう1つは学習者が楽しみながら、しっかり練習できるようにリズム感のある授業にすることです。 ②開講時に学習目標や学習方法、評価方法を明示した。毎回の授業に授業スケジュール及び予習・復習の内容を学生に明示し、予習・復習してもらった内容は必ず学生に発表してもらい、間違ったところを訂正し、分かりやすく説明しました。 受講動機は「関心のある内容である」が64%で、「単位数を確保する」が52%であったので、大多数の学習者の受講動機に合ったものと考えられます。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	今学期は受講者が55名で、1人1人にきめの細かい指導が難しかった。大多数の学生は毎回の授業に真剣に取り組み、優秀な成績を収めることができましたが、授業中に寝たり、お喋りする学生もいたことから上記のように評価した。 また、学生による到達度自己評価において、（2）、（6）、（7）、（8）の4項目の中央値が5.0で、（1）、（3）、（4）、（5）、（9）、（10）の6項目の中央値が4.0であったことから上記の評価は適切であったと思われます。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性 本科目は「総合人間科学」に属する選択科目であるが、観光文化学科の「専門教育科目－ツーリズム中国語など」と関連性を持つ重要な位置にある。学生により学習習慣を付けさせ、中国語学習において、分かる、できる、つながるという喜びを感じさせ、中国語大好き人間にさせることが最も重要だと考えて授業を進めた。大多数の学生が優秀な成績を収めたことから、内容的には妥当であったと考えられます。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 「受講動機」は関心のある内容であったことや、「学習到達度の自己評価」において、(2)、(6)、(7)、(8)の4項目の中央値が共に5.0であることからみて、内容的には妥当であったと考えられます。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	常に学生の学習状況を確認し、無理のないように授業を進めた。 「授業の質の評価」の5項目の中央値はすべて5.0であることから授業の進め方は適切であったと言えます。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「授業の質評価」5項目の中央値はすべて5.0であることから、総括的に高い授業効果が得られたと評価する。 多人数のクラスでは如何にしてすべての学習者に同等程度の授業効果を得られるかが課題です。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科・観光文化学科
氏名	韓 京我

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	はい	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①今回の受講動機をみると「関心のある内容である」68%との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組むことができた。そして「単位数を確保する」42%、「資格取得に必要である」24%という回答もあり、実用性が認識されていることが確認できた。②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。その項目から受講動機、韓国語学習経験、知りたい事を把握した。③各課に文字読み取りテスト、単語テスト、挨拶テスト、自己紹介テスト、会話練習を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。④昨年度に示した改選計画では、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由に「どのようなことをしたらいいか分からなかったから」もあったため、これについて復習項目と次回講義の予告をする事で自習を促した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81点であり、再試験対象は5名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは、50名だった。目標別に見ると、知識理解に関しては81.1%、機能表現は83%であった。知識理解では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また機能表現では、文字読み取りテスト、挨拶テストと自己紹介テストの実施で、「知識を新たに得ることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で高い満足度が見られ、講義の重点を置いている点と学生の満足度が一致する結果が得られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的妥当性があると考えられる。②DP、授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。③まとめ、以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。また韓国語の発表の時間や会話の機会などコミュニケーションを図れるよう努めた。最終テストでは全員の平均点が高く、語学の基礎的レベルには十分達したと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと考える。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科・観光文化学科
氏名	麻生 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フランス語入門	2	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	登録者17名のうち、約半数に当たる9名から回答があった。 志望動機は77%（7名）が「関心のある内容である」と回答した。大学で初めて学ぶ言語として、フランス語は魅力に映っていることがうかがえた。その他の回答は「単位数を確保する」（5名、55%）「友人が履修している」（2名、22%）「資格取得に必要である」「GPAをあげる」（各1名、11%）だった。教科書は、学習を始めた初年度からフランス語で自己表現できることを目的としたものを採用し、日常の会話や自分自身について話すことを重点的に取り上げた。毎回の授業で扱った練習問題の解答はGoogle Classroomにアップし、欠席した際のフォローとした。さらに「予習復習シート」を配布し、自習を促した。また、実際に旅行することをイメージするために、語学講座の番組等を用いてフランスの観光地や文化を紹介し、学習のモチベーションアップをはかった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75点（±49点）であり、17名のうち7名は80点以上の理想的なレベル、7名は標準的なレベルに達した。3名がA評価、4名がB評価、追試験を受けなかったことによる不合格者は3名だった。学習到達度の自己評価を目標別に見ると、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」と答えた割合は、DP1「知識・理解」は88%（8名）、DP5「技能・表現」は66%（6名）だった。このことから学生の目標は総合的には「やや達成された」と思われる。学習量の面では、1回30分程度以上の予習・復習を1～6回行った人と、0回だった人の割合が半々となった。授業の課題以外に取り組んだ学習として、1名が「フランスの文化を調べた」と答えた。取り組まなかった理由としては「やることがなかった」「授業中の課題で十分だと思った」「他の課題が忙しかった」などが挙げられた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の質評価において、どの項目も一定程度の評価が得られた（平均値4.1～4.3、中央値5.0）。「評価基準は明らかであった」「学習範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「学生が参加する機会が作られていた」「質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の設問に対し、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答した人は全体の71%（延べ数32）だった。一方、6%（延べ数3）が「少しそうでないと思う」と答えた。自由記述の意見では「フランス語を学んでみて、思っていたより発音が難しいと知ったが、解説や説明が分かりやすく、どんどん話せる単語、文が増えていったのでとても楽しかった」との声が上がった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教科書の内容に遅れる人がなるべく出ないよう、前年度よりもペースをゆるめて3回の授業で1つの課を終えることとした結果、理解度が高まり、各自が目標をある程度クリアできていた。コミュニケーション主体の教科書であったため、クラスメイトと話し合って会話を披露するという、話す喜びを感じられる楽しい時間を持つことができた。しかし授業だけで満足する人が多く、授業外での学習に結びつけることができなかったのは、もっと学びたい人がいたとすれば勿体なかった点である。自宅学習のために「予習復習シート」を配布したが、あまり活用してもらえなかったのかもしれない。17%（3名）が不合格となったことも予想外だった。特に筆記の問題が成績に影響していた。改善点としては、授業外の課題を設けて評価対象とすること、言語習得に必要な4技能（聴解、読解、筆記、発話）をまんべんなく上達させることを掲げたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	フランス語は、世界五大陸の人とコミュニケーションをとる機会が生まれる、話者数も学習者数も世界でもトップクラスの間口の広い言語である。そんなフランス語を学ぶことを通して、今の自分に見えている世界が全てではないことを知り、多様な環境や文化があることに思いを致すきっかけになればと考えてきた。別にフランス語でなくてもよいのだろうが、他人と教え合い学び合うためには、外国語はよい材料であることは間違いない。今年度はペア活動に多くの時間を割き、発話にこだわってきたが、これは次年度も続けていきたい。さらに、もっと学びたい人の可能性を伸ばすための方策として、自分で資料を集め、調べたことをまとめる課題や、教科書外の練習問題などの課題も検討したい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	英語学科・観光文化学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を6団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということを、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させ、次の時間に必ずフィードバックをした。 なお、今年度も複数学科合同講義で、多人数かつ少々リアルに欠けるところもあったかもしれないが、学生たちのリアクションペーパーから、また外部講師の先生方の力強いご協力により、十分な教育の提供ができたと思われた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、とにかく楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒に行って、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考ええる。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師（ゲストスピーカー）の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当に関しては問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、今年度は対面にて、シラバス通りに進化した。 次年度も同様の内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。

学科	看護学科
氏名	本山 大輔

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（旧約聖書）	1	前期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、本学の建学の基礎となるキリスト教の聖典である旧約聖書についての授業であった。本科目では創世記を学ぶことにおいてキリスト教的創造論、人間の存在論を中心に理解を深めた。聖書の読み方から始まり、実際に授業で繰り返し聖書を読むことで聖書の文体に慣れていくことを大事にした。また一人で読まずにペアリーディングをすることで、聖書の読み方を相互に学べるように整えた。聖書のリーディングの後に、旧約聖書の物語をより深く理解するために動画を用いた。加えて、創世記が示している人間の存在意義、働き、他者との関係性、現代的課題を理解するために、ワークショップを多用した。ワークショップを通して、コミュニケーション能力を高め、将来社会に出た時に、多様な人々とのコミュニケーションを取るために必要なスキルも身に付けさせた。ワークショップは生徒同士のコミュニケーションを深める機会となったと考える。講義の終了時に、クラスポートフォリオを記入させ、講義から学んだことをまとめさせることにより、より理解を深めるように試みた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績平均値は91であり、再試験の対象はいなかった。講義の内容を受講生は十分に理解し、また積極的な学びができた結果であると考えられる。授業評価アンケートにおいて知識理解は4.3ポイント、事象は共に4.4ポイントであり高水準を得ている。自己達成度4.0ポイントとなっており、本講義から受講生が知識を得ることができたと理解される。一方で、専門分野との関係性においては(7)3.8ポイント(10)が3.3ポイントとなっており、看護師という職業とキリスト教の紐づけが不十分であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は必須科目であるために、キリスト教に関心を持ってこの授業を受講しようとした受講生は0%である。キリスト教を学び意義については学生に十分に引き渡っていないという現実がここに示されている。本科目はチャペルや教会訪問と連動しており、チャペルの内容の充実や教会訪問での整えなどをより豊かにすることで、関心を高めることになるかもしれない。しかし、受講生の多くが受講中に新たな知識を得、キリスト教に関心を持つ生徒も一定数おり、成績も高水準で維持されているので、授業の内容としては適切であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 自由記述がほとんどなかった。もう少し受講生に授業の内容について積極的に記述することを推進する必要がある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価として、最も高く評価されたのは(2)(3)(8)であり4.3ポイント前後である。特筆されることは(8)の「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」と多くの学生が評価をしていることである。一方的な講座になりがちな大学の授業において、受講生がこの項目を評価していることはアクティブラーニングが求められる記念の教育において評価されるべきことであると考ええる。他の授業の質評価は、(1)(4)(5)(6)(7)が4.0ポイント以下であり、高水準の評価を得ている。これらの結果は、受講生にとっては本講義について積極的な評価をしていると言える。一方で、授業の準備においては、半数以上が予習の時間を設けていなかった。授業内で、聖書を読むなどの課題を出したが、短時間でこなせるものであり、課題をやったという感覚を受講生が持たなかったのかもしれない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	キリスト教、旧約聖書、創世記について基本的な知識を得ることについては概ね達成したと考える。また受講生自身がコミュニケーション力を高めることができたと評価しており、将来、栄養士などの職業に就いていくために必要な会話の力を高めることもできたように思える。もう一步、進んで受講生がクラスの中で主体的に発題するような講義ができれば、より受講生の授業への評価が高まると考える。講師自身の課題としては。受講生の「目標・職業選択」の項目をどうやって高めていくかということに尽きる。看護学とキリスト教学の結びつきを探究する必要がある。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①講義、課題などのスケジュール自己管理と学修の振り返りのために、ポートフォリオを毎回持参させシラバスで確認するよう指導した。 ②レポート作成にあたり以下の点について改善を行った。 ・学生が苦手とする「問いの発見」については、問いだてを理解しやすいようにシートを3段階の1系統にしばった形に改善を行った。 ・文献検索法を繰り返し説明し実践させることで、情報の入手法の習熟度を上げる取り組みをした。 ・前年度まで3回のレポート作成（500字、1000字、2000字）を課したが、これを1回（2000字程度）にして、同じことの繰り返しにならないように工夫した。 ③グループワークを充実させることを目的に、グループワークを「アイデアの収束法」と「アイデアの発表法」の各2回、計4回で実施した。「収束法」ではKJ法の基礎を学び、「発表法」で取り組んだディベートにつなげた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①総合評価では、全体平均が79.5、Aが6％、Bが46％、Cが39％、標準的レベル(70点以上)に達した学生は91％、理想的レベル(80点以上)に達した学生は52％であった。 ②学生の到達度自己評価では、"知識を確認・修正・新たに得ることができた"4.0、"専門分野の課題を検討する力を得ることができた"3.7、"専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた"3.6、コミュニケーション力や表現力を高めることができた"4.2であった。 ③授業の質評価は、"レポートなどの評価基準の明確さ"4.2、"学習の範囲や課題の明確さ"4.2、"話し合う、発表するなどの機会があった"4.6、"学生の質問を受け付け答える機会があった"4.1だった。昨年度とほぼ同程度の結果であったが、グループワークを拡充したためか、「話し合う、発表する機会」については、昨年の4.2から4.6へ大幅に改善した。 ④学習量の評価は、1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が32.9％・29.1％であった。課題以外の学習に取り組んだ学生は17.7％で、「文献探し、文献の書き方」などに主体的に取り組んでいた。一方で、「時間がなかった、課題で精一杯だった、他の課題に追われていた」などの理由で、課題以外の学習に取り組んでいない学生がみられた。全体として、昨年に比べて低調だった。 ⑤図書館利用率92.4％、学術データベース利用率87.3％、インターネットなどの利用率88.6％と多くの学生が文献収集に積極的に取り組んでいた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的としている。講義内容は、看護学科の学生を意識したもので、1年次で身につけなければならない内容を含んでおり科目の位置づけとして妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①レポート作成の機会を減らしたことによって、十分な添削指導などができなかったが、この点については初年次セミナーⅡとの連携をとりながら改善する必要がある。 ②グループワークを拡充し、学生同士の意見交換や発表の機会を増やしたが、学生の授業評価では一定の評価を受けていると考えられるので、グループワークの構成を含めてさらに充実するように検討する必要がある。 ③前年度からの引継ぎではあるが、パソコンを持参せずスマホで情報収集する場面が目立つ。パソコンの必携を進めていく必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の目標達成状況と授業評価から、1年で学ぶ学修の基本スキルズを修得するという目標は達成できたと思われる。担当教員5名による講義前後の講義内容・進度などの打ち合わせもスムーズに行われており、次年度もこの取り組みを継続し実施する。一方、レポート作成については、シートの改善などを行ったが、「問いの発見」「文献を使った論述法」に苦渋した学生がみられ課題が残った。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康・体力に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。また、健康・体力に関する最新のエビデンスを紹介した。 毎回、授業で理解した内容をにclassroomで提出させると同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講者95名の最終的な成績の平均値は79.3（±10.4）点でであった。成績分布別にみると、90点以上が12名（12.6％）、89～80点が41名（43.2％）、79～70点が24名（25.3％）、69～60点が18名（18.9％）であり、すべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち55.8％の学生が理想的レベルに達していた。 アンケートに回答した77名の学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」では、「かなりそうだと思う」が21名（27.3％）、「わりにそう思う」が32名（41.6％）、「まあまあそうだと思う」が22名（28.6％）、「少しそうでないと思う」が2名（2.6％）であり、ほとんど（97.4％）の学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」という質問で、「かなりそうだと思う」が37名（48.1％）、「わりにそう思う」が28名（36.4％）、「まあまあそうだと思う」が11名（14.3％）、「少しそうでないと思う」が1名（1.3％）であり、ほとんどすべて（98.7％）の学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3）。また、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が23名（29.9％）、「わりにそう思う」が34名（44.2％）、「まあまあそうだと思う」が16名（20.8％）、「少しそうでないと思う」が4名（5.2％）であり、ほとんど（94.8％）の学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果をより大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「自分なりの目標を達成した」および「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていたことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、「口頭、文章など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」以外の質問では、平均値が4.1～4.2であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考えるが、授業時間内において学生がもう少し主体的に学ぶ時間を設けたり、質問をし易くなる工夫をしたいと考えている。 学習量の評価では、自発的学習（「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」の質問）について、「していない」が58名（75.3%）、「取り組んだ」が19名（24.7%）と、多くの学生が授業課題以外の学習に取り組んでいなかった。授業課題以外の学習で、学びを深めることの必要性や楽しさを伝えることによって、学生の学びの意欲を高めたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後はさらに学生が内容を理解しやすくなるような工夫と、学習に対する動機づけをさらに行なっていく。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点（課題）などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講者83名の最終的な成績の平均値は86.7（±5.9）点であった。成績分布別にみると、90点以上が31名（37.3%）、89～80点が45名（54.2%）、79～70点が6名（7.2%）、69～60点が1名（1.2%）であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、非常に多く（91.5%）の学生が理想的レベルに達していた。 アンケートに回答した59名の学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が27名（45.8%）、「わりにそうだと思う」が14名（23.7%）、「まあまあそうだと思う」が17名（28.8%）とほぼすべての学生（98.3%）が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価については、質問項目2と3で、「かなりそうだと思う」が28名（47.5%）と27名45.8%）、「わりにそうだと思う」が共に13名（22.0%）、「まあまあそうだと思う」が共に16名（27.1%）と、ほとんどの学生（96.6%と94.9%）が肯定的に捉えていた（平均値4.1と4.1）。 「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）については、「かなりそうだと思う」が20名（33.9%）、「わりにそうだと思う」が22名（37.3%）、「まあまあそうだと思う」が14名（23.7%）と、ほぼすべて学生（94.9）が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動（筋力づくり運動およびスタミナづくり運動）の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ（バスケットボール、バレーボール）の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返りを行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようなことから、本科目は内容的に妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.9～4.3であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはウォーキングや筋力トレーニング、ストレッチなどを行っていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かし、健康の維持・増進に努める学生を増やすことである。

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①科目の目的は、生体のしくみを高校で学ぶ生物の基礎を土台に、大学で学ぶ解剖学・生理学・疾病学につなぐことである。1年生の前期科目であることを意識し、高校の生物の基礎知識→解剖学・生理学の知識→疾病の発症要因と、段階をおって講義を組み立てた。難しいと思われる疾病事例は、日常生活で見聞きするものを数例選択し、学生に興味をもたせ学ばせるよう工夫した。 ②今年度は、ポートフォリオ・「ポイント整理」をまとめる方法を講義で説明し、講義には常に自身で作成したポートフォリオ・「ポイント整理」を持参するよう指示した。また、講義中にラウンドして、整理の状況を確認した。整理の仕方、まとめ方がうまくいってない学生には直接指導した。 ③理解が難しい講義内容については、①学生同士で話し合いの場を設ける。それでも理解できなかった場合には、②再度講義を行い、内容理解ができるようにし繰り返し学ぶ場を提供した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は80点（±13.8）で、92%の学生が60点以上、72%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、理想的レベル（80点以上）に達した学生は53%だった。小テストの平均点は17/20点（得点率85%）、講義後の提出課題の平均点は9/10点（得点率90%）だった。 ②学生の到達度自己評価では、「自分なりに目標を達成した4.2」、「新しい知識など得ることができた4.6」、「専門分野の課題を検討する力がついた、的確に判断する力がついた4.6」であった。また「専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」は、4.6だった。昨年に比較すると学ぶ意欲が高く、積極的な姿勢で講義に臨む姿勢が認められた。 ③授業の質評価では、「テストの評価基準、課題の明確さ、説明の理解しやすさはともに4.6～4.7」、「質問を受ける機会を設けていた4.3」であった。 ④学習量の評価をみると1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が52%・68%、2～3回以上した学生が80%・93%だった。課題以外の学習に取り組んだ学生が83%いた。今年度は、予復習をしてない学生が1%以下であった。図書館利用率は84%、インターネット利用率は81.5%であった。多くの学生が、積極的にポートフォリオ・「ポイント整理」を作成し、講義内容をまとめる工夫をしていることから講義に対する積極的な姿勢が窺えた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 大学で学ぶ生物学として、専門科目を意識した科目内容及び1年生を対象にした一般教養科目としてのカリキュラム上の位置付けは妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 上記に記載した学生の自己評価や成績の状況から、学生が学ぶ内容としては妥当であったと思われる。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるといえる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①上記の授業評価、学生の多くの意見から、ポートフォリオ・「ポイント整理」の点検確認、及び、まとめ方についてのアドバイスは、学生の学びの姿勢を引き出す上で効果があったとする。 ②また、講義での学習姿勢も積極的であり、質問にくる学生も多く見られた。 ③昨年度、今年度と、主体的学習量が増える傾向を認めている。また、講義内容や試験の難易度は、昨年度とほぼ同レベルであるが、今年度は、学習の質評価も高く、標準的レベルに達した学生が20%増えている。今年度の授業改善の取り組みを継続しおこなうことで、学生の意欲・積極性をさらに引き出すようにしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	一般教養科目としての位置づけと学科特性を踏まえた講義内容、そして達成度状況・授業評価から、今年度の科目講義目標は、達成できたと考える。ポートフォリオ・「ポイント整理」の点検確認、及び、まとめ方についてのアドバイスは、学生の学びの姿勢を引き出す上で効果があった。次年度は、学習効果をあげるために、学生同士で学びを共有する機会・振り返りの時間を設けることで、互いに学びを深めるような工夫ができればと考える。

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こころと人間	2	前期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	コロナ禍におけるここ3年、社会はストレス社会であると感じる。心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	例年の実践で効果を実感している方法、毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「質問の回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく先生の人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	長年の課題である、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いのではないかと授業アンケートの結果からまだまだ改善されていないと言える様である。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後さらに試行継続してみたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	年度当初に学生に示したシラバスでの「行動目標」は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわえたい。睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。

学科	看護学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	選択	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	For this course we used the textbook "Four Corners 1 2nd edition" (Cambridge), which guides students through practical exercises aimed at improving spoken English skills. Students engaged in listening practice, dialogue drills, information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building for the first half of the textbook.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	Students were assessed on passive participation, weekly class tasks,and presentations (80%) and a final assessment (20%). Student scores were well-balanced from the 60s through the 90s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students were very enthusiastic, positive, and willing to learn. This positive outlook contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. Opportunities to gain knowledge and understanding of functional English (DP1) were provided throughout the course with most students taking advantage of the opportunity to learn.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Goals for the next academic year will be to integrate new approaches and skills required to successfully plan, distribute, monitor and collect the productive output of the students. This will be achieved while also accurately tracking and assessing every single student up to the usual standards.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Integrating a wide range of educational technologies into the course syllabus will continue as I combine the benefits of online teching techniques with fully face-to-face lessons.

学科	看護学科
氏名	宮浦 崇

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	PCのある演習室での実施で、個人のスキルの違いによる進捗状況の差があまり大きくならないように個人演習での「つまづき」を最小化する授業内容となるよう心がけた。 開講当初に実施したアンケートから、受講者のPCスキルのスタートラインが高校までの学習経験の違いから大きく差があり、一層の習熟が必要な受講生がおよそ2割強程度いたことから、講義回の2回は、大学が示すICT活用のためのルール・規範などの情報に繰り返し触れながら、PC操作やメール送受信、キーボード入力などの基本的PC操作スキルの向上に焦点をあてた授業進行をおこなった。また非同期オンラインの授業を設定して、各自のペースで習熟をはかることができる授業進行を一部で採用した。 授業中に教室での進捗状況確認やアンケートから、高校の教科「情報」の履修において一定のスキルを身につけ、PC操作経験時間数が相当数こなした既に一定のITスキルのある受講生からは、内容が平易であり、高校や自分自身のスキルアップによって既習の内容が多くあり、それらに時間が割かれることへの不満の声が届いたが、この科目が目指す学習到達目標に、多くの受講生を導くために必要な時間・措置であったことを理解してもらうように説明をおこなった。そのような受講生に対しては、より高度なオプション演習や他の履修者に対するサポート役をお願いするなどして、その点について評価に考慮した。受講生の習熟に応じた課題開発や授業運営方法の検討など、今後も工夫していきたい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	提出された各回の課題、小テスト、説明課題、プレゼンテーション資料の作成と発表、最終レポートの作成課題の到達度（評価点）からは、シラバスに示した3つの到達目標（行動目標）は受講生の多くが達成されたものと見なすことができる。また授業アンケートの自己評価の結果に照らしても同様の結果であると判断する。なお本クラスにおいて、途中で履修を棄権した学生はいなかった。 【参考1】シラバスに示した到達目標 目標1. メディアリテラシーに関する理論や重要な事柄について説明することができるようになる。 目標2. メディアから受け取った情報の妥当性を判断するための方策について説明することができるようになる。 目標3. 文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトを利用した情報発信ができるようになる。 【参考2】最終成績の得点分布割合（履修者12名） S：15%、A：66%、BおよびC：19%、D：0% 【参考3】最終成績を構成する各課題・提出物の評価ウェイト 最終レポート：30%、小テスト：20%、プレゼン課題および関連課題：20%、各授業回の提出物（miniレポートや"説明"課題）：30%					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	"メディアリテラシー" (情報を伝える媒体を使いこなす基礎的な能力・知識・態度) の習得を通じて、大学が掲げる「豊かな人間性と社会を捉える総合的視点と知識を身につけている」ことに寄与している。また、PC活用スキルを獲得しより高度化することで大学の掲げる「専攻する学問分野における基礎的知識を修得している」ことに寄与している。 本講義で重点的に指導をおこなったキーボード入力や情報発信（プレゼンテーション、パワーポイント活用）の熟達について、その必要性に気づき取り組んだ受講生が一定見られたことは、学習ツールの活用および表現のためのスキルアップのための基盤が形成されたこととして良い傾向であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	PC教室での演習授業において、受講生の習熟度の違いによる課題分量や難易度調整について、継続して改善方を検討していきたい。本年度も「簡単だった」「難しかった」両意見が二極化する傾向が見うけられたため、「難しかった」側への対応だけでなく全体的対応を心がけていきたい。 大学入学までの段階で極端にPC利用経験が浅かったりキーボード操作に不慣れな受講生については、本年度採用した自分のペースで学習をすすめる非同期オンライン方授業（オンデマンド授業）により、各自のペースで学習をすすめてもらえるよう課題内容や講義構成を調整したが、アンケート等ではこのことについて大きな不満や履修上の困難等ネガティブな言及は見うけられなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終レポートや各回の提出課題や履修者アンケートなどから、本講義で目指した到達目標（行動目標）は概ね達成できたものと考えている。採用した非同期オンライン授業（オンデマンド授業）については、学生の全体の受講スケジュールなどを確認しながら、課題の負荷調整の必要を認識した。このほかにも上記で示した課題などに留意しながら、授業改善をすすめたい。

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、大学生としてのICTの基礎スキル修得を主目的とした授業であるが、ソフトウェアの基本的な使い方は高校時代に学んでいる学生が多く、また日々進化し続けるICT社会において、使い方そのものはあまり意味をなさない。むしろ、PCを用いて何を表現できるかが4年間の大学生活を送っていく上で、あるいは社会人基礎力として重要である。従って、授業では文書作成やデータ活用において、学生生活で必要となるPCによるレポート作成技法やデータ処理スキル、インターネットの活用手法、あるいはプレゼンスキルの向上を目標としながら、その中で必要なICTスキルを修得させることに重点を置いた。 受講動機では、「関心のある内容である」が約40%弱となっており、第1回講義において本科目の位置づけとICTの重要性を看護業務等と絡めてしっかりと説明したが理解が進んだとは言えない状況である。また、「単位数を確保する」も50%を超えており、次年度に向けてさらなる改善が求められる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「秀・優」の学生が50%を超えており、「良」も加えると76%に上っているため、授業目標としているレベルを達成できたといえる。「可」の14%の学生は、授業内容は十分理解できてはいるものの、授業等で習得したスキルや知識が復習不足から身についておらず、課題の内容において満足のいく結果を残せていない状況である。これらの学生をどのようにフォローしていくかは今後の検討課題といえる。 学生の到達度自己評価でみると、全体的傾向として（2）の項目において高い数値を示しており、学生自身も授業目的であるICT活用術の修得を実感できていると言えるのではないだろうか。また、（7）の項目も高い数値を示している。毎回の授業内容、練習課題等において看護に関連する話題を提供した点が数値の伸びにつながっていると考えられる。ただし、1年生前期の科目であるため、本授業の内容が4年間の大学生活や卒業後の業務の中で重要な要素となる点については、学生自身が把握しきれておらず、他の項目の数値の伸び悩みにつながっていると考えられる。全体的に数値が高くなっている点は評価できるが、次年度に向けてさらなる改善の余地を残している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する1年生の前期に実施される選択科目である。受講生が入学直後であり、まだ完全にDP、CP、カリキュラムマップを理解し切れていない中で、学生生活だけでなく社会人基礎力としても必須のICTスキルの重要性を理解させるよう工夫している。学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 授業評価から「コミュニケーションや表現」および「職業選択の参考」に関する達成度が他の項目に比べて低かったが、パソコンの基礎スキル向上を目的とする授業内容であることが影響していると考えられる。次年度に向けて何らかの手法を検討したい。また、思考判断に関しては、与えられたことを指示された手順に沿って行うことは得意であるが、自分で創造夫していく課題になると対応できない点が見受けられる。復習の時間不足が原因と考えられるが、次年度に向けて改善策が必要である。しかし、成績の面では内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」では、(1)から(3)に関して「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」を合わせて7割を超えている点は、こちらの授業意図が学生にも浸透していたのではないと思われる。しかし、(4)についてはPCを中心とした実習授業であると言う事もあるが、授業内課題については周囲と相談しながら行わせるなど、PCとだけに向き合う事のないようにしたが「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」あわせて4割強であり、検討の余地を残した。 「学習量の評価」では、(1)については「0回」が4割弱、(2)については3割弱を占めており、「1回」も含めると5割近くになっている。授業では自己学習の取り組み方について指導は行っていたが、対応を検討する必要がある。 また、授業全体を通して与えられたテーマ、課題に対して、PCをどのように活用しながらその問題解決に取り組んでいくかという点に主眼を置いた授業展開を心掛けていた。これについては、昨年度に引き続きよい結果が得られている。今後は、更なる数値の向上を目指し、検討を重ねていきたい。 学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活の中で必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。また、与えられたテーマや課題に対して、その問題解決のためにPCをどのように活用すべきかという点ではよい評価を得ることができた。しかしながら、看護学科という卒業後の進路が明確な学生に対して、どのように専門性と結び付けながら関心を持たせるかという点では、毎年同様の評価傾向にあり、様々な工夫を凝らしているが結果に結びついていないので、さらなる改良の余地を残した。 以上から、教材内容の見直しや、課題提示の工夫、グループ活動への取り組みなど、次回に向けた改善を検討していきたいと考えている。

学科	看護学科・英語学科・観光文化学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	182

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	科目名称の通り、西南女学院とキリスト教との関わりに重点を置き、オムニバスで講義を行った。西南女学院の歴史的転換点においての内部での議論やその後の方向性について講義出来る方々を厳選し、キリスト教の日本への伝来から西南女学院を創立・発展させた宣教師やクリスチャンの働きについてまで8回にわたり紐解いた。宗教主任補佐のラス・ボーグ先生は本学院の歴史的研究をされており、アメリカに現存する貴重な資料をもとに、草創期の宣教師の働きについて3回にわたる講義を担当された。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の出席率は全ての講義時間において各学科で90%を超えており、出された回答は熱心にかかれ、講義の内容も十分に把握されていた。講義者により多くの画像が配信されたため、印象深い回答がほとんどであった。したがって大部分の学生の成績は優、あるいは秀であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP：この科目は総合人間学の必須科目であり、本学の寄付行為や建学の精神、また、大学の設置趣旨の最初の項目に相当し、CP上妥当であると考ええる。 DP：この科目の目標は①西南女学院の歴史を知り、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深めることができる。②設立者や宣教師たちの精神と働きを学び、「西南女学院生」としての自己形成を深めることができる。③キリスト教に基づく女子教育の意義を理解し説明できる、であり、DP1-1とDP4-1に相当しており妥当と考える。 上記より、内容的妥当性に問題はないと思われる。 なお、全学科の到達度自己評価の平均値は3.8で、自由記述からも特に問題点は見られなかった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、提出物の評価基準、学習範囲や課題、理解しやすさの平均は4.2を超えていた。大人数授業のため学生参加の機会、質疑応答の機会提供が難しいが、今後は学生が発言できる機会を積極的に設けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	大人数の対面授業ではあるが、どの学科の学生も意欲的に学ぶことができた。今後も、学生が本学の歴史や特色を十分に理解した上で、それぞれの専門科目に取り組み、西南女学院生としての自己形成の土台を築くことができるよう、内容を工夫したい。

学科	福祉学科
氏名	永町 友恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（旧約聖書）	1	前期	必修	はい	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	聖書を学ぶことが初めての学生にも、分かりやすくなるように準備いたしました。インターネットの教材も取り入れながら、視覚的に説明するために、ユーチューブなどの教材も積極的に取り入れました。また教会音楽を多く取り入れ聴覚的にもキリスト教会の雰囲気を感じられるように工夫し、色々なジャンルの教会音楽を紹介しました。さらに聖書の言葉を信じた、キリスト者の人生からも学べるように何人かの人物を紹介しました。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	大学の講義だという自覚を持たせつつも、福祉の考えの根拠の一つは聖書なんだというモチベーションを与えました。課題提出の時に質問した学生には、次講義の場で返答しましたし、学生共通の質問や誤解している場合も、返答しました。またキリスト教、そして聖書の入門的な位置づけの講義ですので、講義だけで完結するようにプログラムを組み立てました。今後はさらに図書館に多くのキリスト教関係の書物があることの紹介や、さらなる学びの方向性についてもアピールできたらと思います。最後にキリスト教会で礼拝の体験をできたことは素晴らしいのではないでしょうか。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この講義の目的は、実際に聖書を手に取り、読んでもらうこと。そして聖書の全体像をつかんでもらう。さらに、この西南女学院大学の創立精神がこの聖書の中にあることを知ってもらうことです。前期は旧聖書を学ぶことでしたので、キリストを待つユダヤ人の思いや、聖書の人物はどのような人生を経験したのか。また聖書の教えが世界にどのように影響を与えたかを知っていただきました。しかし聖書にあまり興味のない学生がいたことは事実です。その方々に色々なジャンルの教会音楽を通して、また聖書を題材とした絵画を通してキリスト教学に興味を持って頂けるようにアピールしました。また学生たちが不安を持つ中で、講義の最初の祈りを通して、心休まる体験もできたと思います。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1年目はオンラインだけの講義であり、2年目は対面初年度の講義義でした。今年は4年目でした。2年目同様に事前に、昨年度の反省を込めて講義ノートを準備し、講義前に配りました。この講義は知的面だけの学びではないので、実際に教会の礼拝に参加することや、大学のチャペルをリアルに参加することができたので、より講義の内容が理解できたのではないかと思います。講義のまとめのものを、視覚的な教材も用いて見せられたことは良かったと思います。また最後の講義では学生たちによるプレゼンテーションを何人かにして頂き、能動的に聖書に関する発表をしていただきました。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	2024年度前期はだいぶ新型コロナウイルスの影響が薄れ、学生たちが教会の礼拝に実際に参加できました。またマスクで顔を隠すことなく学生たちに、神、イエスさま、そして聖書のすばらしさを講義で話すことができました。またキリスト者の社会的貢献から学び、弱さを覚える方々がキリストにあって生き生きと生活した姿をお知らせすることもできました。そのことで福祉の精神がキリスト教の精神とも共通性があることも学んでいただけたと思います。そして聖書の中の女性にスポットを当て、女子大の学生に聖書登場人物に対して近さを感じていただきました。またキリスト教とキリスト教的カルトについての違いも教えることができ、キリスト教の本質を（民主的であり、平等であることを）学んでいただきました。さらにこのキリスト教の信仰で、この西南女学院大学が創立されたことを分かち合うことができました。しかし大学の講義ですから、さらなるキリスト教学、聖書の学びに進めるよう、学生たちに紹介していきたいと思います。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は52名、回答率は75.4%であった。学生の受講動機は「必修科目である」が98%のほか、資格取得には直接関係ない科目であるが「資格取得に必要である」が12%であった。 この科目は、全体での共通の講義のほか、教員のオムニバス形式(4回1クールで行うので、実際に学生が受講する教員は3名)で行う科目であることから、各教員の専門性を重視しつつ、大学における学びで必要不可欠である「調べる」「聞く」「読む」「書く」ための技能を身につけることを目的として授業を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価について、理想的レベル（90点以上）に達した学生は34名と昨年の約1.5倍に増加した。また、出席数不足は1名いたほか、再試験対象者も1名であった。再試験対象者の発生は2年連続だが、その原因は課題の未提出と欠席回数の多さにある。 到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.4、「自分なりの目標を達成した」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに4.0であったほか、平均値が3.2であった「職業選択の選考になった」を除き、その他の項目も平均値はいずれも3.8-3.9を示していた。全体的に昨年度並みの数値を示している。 学習量について、授業の準備を行った回数が0回が12名いた一方、6回も11名おり、学生間のばらつきが大きくなっている。図書館等の利用については、図書館の図書、雑誌を利用した学生は41名と回答者の8割近くに達したほか、学術データベースを利用した学生も29名にのぼった。これは、図書館の使い方についての講義を行った効果も大きいと考える。なお、インターネットを利用した学生は44名であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけから見ると本科目は「必修科目」、「総合人間科学科目」であり、大学における学習の技能を身につけるための科目である。当然福祉の専門領域を学ぶための技能を身につけるための科目でもあり、内容的には妥当であるとする。 ②DP,行動目標から見ると、すべてのDPの基礎となる内容を網羅しているともいえる。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値がともに4.5、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値が4.3、「説明は理解しやすいものであった」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値がともに4.2であり、昨年度より0.1ほど数値が上昇している。 学習量について、授業の復習を全くしなかった学生は12名と昨年度より大幅に減少し、1回以上は復習を行っていた学生は増加した。なお、6回以上復習した学生は10名であった。授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は22名であり、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習については、「理解を深めるためにインターネットを利用した」、「図書館でレポート作成のための書籍を読んだ」、「配布資料を読んだ」、「自分の考えた意見と反対の意見からも考えてみた」などが挙げられていたが、これらはいずれも授業の課題と密接に関連する学習でもある。他方、授業の課題以外の学習に取り組まなかった学生は30名であり、昨年度より割合が減少している。その理由については、「課題でいっぱいだった」との回答が多かったほか、「時間がなかったから」、「何をすべきかわからなかったから」、「授業内で解決するものが多かったから」との回答も見られた。 学生の意見については、「レポートについて深く学べることができ、今後のレポート課題で活用していこうと思います」との意見があった一方、「課題が難しいものが多かった」、「補講はオンデマンドにして、その際のレポートの提出はパソコンから提出できるようにするのがいいと思う」との回答が見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	この科目においては、全学共通の総合人間科学科目として「調べる」「聞く」「読む」「書く」技能の習得に重点を置いたが、当初の目標はおおむね達成できたと言える。後期に行われる「初年次セミナーII」ではこの科目において培った各技能を基に、研究倫理のほか、さらに「発表する」「討論する」技能の習得を目指し、「初年次セミナーI」「初年次セミナーII」を通じて、専門教育が本格化する2年次以降の学習をより深めるため、大学で学ぶための基礎的な知識、技能を身に付けることを目指す。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康・体力に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。また、健康・体力に関する最新のエビデンスを紹介した。 毎回、授業で理解した内容をにclassroomで提出させると同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講者71名の最終的な成績の平均値は79.7（±10.9）点であった。成績分布別にみると、90点以上が14名（19.7％）、89～80点が25名（35.2％）、79～70点が17名（23.9％）、69～60点が14名（19.7％）であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち54.9％の学生が理想的レベルに達していた。 アンケートに回答した59名の学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」では、「かなりそうだと思う」が18名（30.5％）、「わりにそうだと思う」が21名（35.6％）、「まあまあそうだと思う」が20名（33.9％）と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」という質問で、「かなりそうだと思う」が26名（44.1％）、「わりにそうだと思う」が21名（35.6％）、「まあまあそうだと思う」が12名（20.3％）と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.2）。また、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が17名（28.8％）、「わりにそうだと思う」が23名（39.0％）、「まあまあそうだと思う」が17名（28.8％）、「少しそうでないと思う」が2名（3.4％）であり、ほぼすべて（96.6％）の学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果をより大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「自分なりの目標を達成した」および「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価では、ほぼすべての学生が肯定的な回答を行っていたことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、「口頭、文章など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」以外の質問では、平均値が4.1～4.4であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考えるが、授業時間内において学生がもう少し主体的に学ぶ時間を設けたり、質問をし易くなる工夫をしたいと考えている。 学習量の評価では、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」の質問について、「していない」が35名（59.3%）、「取り組んだ」が24名（40.7%）と、多くの学生が授業課題以外の学習に取り組んでいなかった。授業課題以外の学習で、学びを深めることの必要性や楽しさを伝えることによって、学生の学びの意欲を高めたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後はさらに学生が内容を理解しやすくなるような工夫と、学習に対する動機づけをさらに行っていく。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点（課題）などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者83名の最終的な成績の平均値は86.7（±5.9）点であった。成績分布別にみると、90点以上が31名（37.3%）、89～80点が45名（54.2%）、79～70点が6名（7.2%）、69～60点が1名（1.2%）であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、非常に多く（91.5%）の学生が理想的レベルに達していた。 アンケートに回答した51名の学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が24名（47.1%）、「わりにそうだと思う」が15名（29.4%）、「まあまあそうだと思う」が12名（23.5%）と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.2）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価については、質問項目2と3で、「かなりそうだと思う」が21名（41.2%）と15名（29.4%）、「わりにそうだと思う」が18名（35.3%）と17名（33.3%）、「まあまあそうだと思う」が12名（23.5%）と15名（29.4%）と、ほとんどの学生（100.0%と92.1%）が肯定的に捉えていた（平均値4.2と3.8）。 「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）については、「かなりそうだと思う」が21名（41.2%）、「わりにそうだと思う」が14名（27.5%）、「まあまあそうだと思う」が14名（27.5%）と、ほぼすべて学生（96.1）が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動（筋力づくり運動およびスタミナづくり運動）の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ（バスケットボール、バレーボール）の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようなことから、本科目は内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.9～4.3であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはウォーキングや筋力トレーニング、ストレッチなどを行っていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
7. 総括的评价と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的评价と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かし、健康の維持・増進に努める学生の数を増やすことである。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	福祉学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	選択	いいえ	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	For this course we used the textbook "Four Corners 1 2nd edition" (Cambridge), which guides students through practical exercises aimed at improving spoken English skills. Students engaged in listening practice, dialogue drills, information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building for the first half of the textbook.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	Students were assessed on passive participation, weekly class tasks,and presentations (80%) and a final assessment (20%). Student scores were well-balanced from the 60s through the 90s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students were very enthusiastic, positive, and willing to learn. This positive outlook contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. Opportunities to gain knowledge and understanding of functional English (DP1) were provided throughout the course with most students taking advantage of the opportunity to learn.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Goals for the next academic year will be to integrate new approaches and skills required to successfully plan, distribute, monitor and collect the productive output of the students. This will be achieved while also accurately tracking and assessing every single student up to the usual standards.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Integrating a wide range of educational technologies into the course syllabus will continue as I combine the benefits of online teching techniques with fully face-to-face lessons.

学科	福祉学科
氏名	宮浦 崇

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	PCのある演習室での実施で、個人のスキルの違いによる進捗状況の差があまり大きくならないように個人演習での「つまづき」を最小化する授業内容となるよう心がけた。 開講当初に実施したアンケートから、受講者のPCスキルのスタートラインが高校までの学習経験の違いから大きく差があり、一層の習熟が必要な受講生がおおよそ3割程度いたことから、講義回の3回は、大学が示すICT活用のためのルール・規範などの情報に繰り返し触れながら、PC操作やメール送受信、キーボード入力などの基本的PC操作スキルの向上に焦点をあてた授業進行をおこなった。また非同期オンラインの授業を設定して、各自のペースで習熟をはかることができる授業進行を一部で採用した。 授業中に教室での進捗状況確認やアンケートから、高校の教科「情報」の履修において一定のスキルを身につけ、PC操作経験時間数を相当数こなした既に一定のITスキルのある受講生からは、内容が平易であり、高校や自分自身のスキルアップによって既習の内容が多くあり、それらに時間が割かれることへの不満の声が届いたが、この科目が目指す学習到達目標に、多くの受講生を導くために必要な時間・措置であったことを理解してもらうように説明をおこなった。そのような受講生に対しては、より高度なオプション演習や他の履修者に対するサポート役をお願いするなどして、その点について評価に考慮した。受講生の習熟に応じた課題開発や授業運営方法の検討など、今後も工夫していきたい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	提出された各回の課題、小テスト、説明課題、プレゼンテーション資料の作成と発表、最終レポートの作成課題の到達度（評価点）からは、シラバスに示した3つの到達目標（行動目標）は受講生の多くが達成されたものと見なすことができる。また授業アンケートの自己評価の結果に照らしても同様の結果であると判断する。 【参考1】シラバスに示した到達目標 目標1. メディアリテラシーに関する理論や重要な事柄について説明することができるようになる。 目標2. メディアから受け取った情報の妥当性を判断するための方策について説明することができるようになる。 目標3. 文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトを利用した情報発信ができるようになる。 【参考2】最終成績の得点分布割合（履修者15名） S：40%、A：33%、BおよびC：21%、D：6% 【参考3】最終成績を構成する各課題・提出物の評価ウェイト 最終レポート：30%、小テスト：20%、プレゼン課題および関連課題：20%、各授業回の提出物（miniレポートや"説明"課題）：30%					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	"メディアリテラシー" (情報を伝える媒体を使いこなす基礎的な能力・知識・態度) の習得を通じて、大学が掲げる「豊かな人間性と社会を捉える総合的視点と知識を身につけている」ことに寄与している。また、PC活用スキルを獲得しより高度化することで大学の掲げる「専攻する学問分野における基礎的知識を修得している」ことに寄与している。 本講義で重点的に指導をおこなったキーボード入力や情報発信（プレゼンテーション、パワーポイント活用）の熟達について、その必要性に気づき取り組んだ受講生が一定見られたことは、学習ツールの活用および表現のためのスキルアップのための基盤が形成されたこととして良い傾向であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	PC教室での演習授業において、受講生の習熟度の違いによる課題分量や難易度調整について、継続して改善方を検討していきたい。本年度も「簡単だった」「難しかった」両意見が二極化する傾向が見うけられたため、「難しかった」側への対応だけでなく全体的対応を心がけていきたい。 大学入学までの段階で極端にPC利用経験が浅かったりキーボード操作に不慣れな受講生については、本年度採用した自分のペースで学習をすすめる非同期オンライン方授業（オンデマンド授業）により、各自のペースで学習をすすめてもらえるよう課題内容や講義構成を調整したが、アンケート等ではこのことについて大きな不満や履修上の困難等ネガティブな言及は見られなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終レポートや各回の提出課題や履修者アンケートなどから、本講義で目指した到達目標（行動目標）は概ね達成できたものと考えている。採用した非同期オンライン授業（オンデマンド授業）については、学生の全体の受講スケジュールなどを確認しながら、課題の負荷調整の必要を認識した。このほかにも上記で示した課題などに留意しながら、授業改善をすすめたい。

学科	福祉学科
氏名	古川 洋章

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の理解と表現	2	前期	選択	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度は、反転授業形式を採用し、事前にClassroomに授業資料をアップロードし、予習することを義務付けた。反転授業形式は初めての経験であるため、シラバスにアクティブラーニングとして反転授業形式とすること、および授業の初回に説明を実施した。反転授業形式とした理由は、授業外での学生の負担を軽減するためである。昨年までの授業評価アンケートより、授業外では他の科目の課題が多く対応が難しい、グループワークの時間の調整が困難、という回答があり、少しでも授業時間内で課題の作成が実施できるよう配慮した。この授業における受講動機は資格取得が8割を占めており、目的をもって授業に臨んでいると判断したため、多少難しい内容ではあるが反転授業形式にて実施可能と判断した。 学生の中には、反転授業形式が何かを理解していないものも一定数存在していたため、来年度のシラバスからは反転授業形式についてももう少し詳細に記載して対応したい。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は70.2（±7.2）点であり、標準的レベル（成績が60点以上を想定）に達していない受講者が全体の約5.4%（2名）、理想的なレベル（成績が80点以上を想定）に到達している受講者が全体の約16.2%（6名）であった。また、出席が不足し評価できない受講者が約16.2%（6名）であった。標準的レベルに達していない受講者が昨年度より減少しているものの、理想的なレベルに到達している受講者も減少しているため、この点を考慮すると、達成度については昨年度とほぼ同様であると考える。 今年度は課題が未提出の受講者が多い傾向にあった（全体の3割超）。一方で、課題の周知方法や提出期間は通年通りのため、反転授業形式による影響を含めて次年度は注視していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「養教一種免」に関連する科目であり、「情報機器の操作」における科目として資格取得の上で必修である。単純な機器操作だけではなく、情報モラルや著作権などの情報を扱う上で必要となる知識や、情報を発信するために必要な技術について習得を目指している。近年の情報社会におけるニーズと情報技術の活用の観点から、授業の難易度は高めであると認識しているが、到達度自己評価の結果や学生の成績状況を考慮すると、内容的には妥当であると考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	はじめに「授業と質の評価」において、「（３）説明は理解しやすいものであった」の平均は3.4であり、昨年度の3.7より低い結果となった。一方で、それ以外の項目では前年度の評価を上回っており、この点は評価できる。本年度は反転授業形式であり、これまでの授業形態と大きく異なるため、事前資料や進め方については改善を行っていきたい。 次に「学習量の評価」では、昨年度と比較し大幅に改善しており、この点は評価できる。一方で、自由記述より反転授業形式では他の授業の課題を実施する時間に影響がでるとの指摘もあり、予習に必要な時間および学習量については改善を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成目標への到達については、概ね達成できた結果となった。今年度の課題として、反転授業形式における予習として適切な内容および学習量の改善が挙げられる。次年度は、予習・復習がしやすい資料や環境を提供できるように対応していきたい。

学科	福祉学科・英語学科・観光文化学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①福祉・英語・観光文化学科、3学科合同の科目である。受講同期に関心があると答えた学生が76%で、より興味関心を持つような、また、苦手意識を持たないように講義内容にするよう以下の準備をした。 ②講義内容は、高校で学ぶ生物の基礎知識をもとに、ヒトの生体に焦点をあてる講義内容とした。特に、興味を持たせるために日常生活の中で見聞きする疾患を事例に、高校の生物基礎→解剖学・生理学の知識→疾病の発症要因と、段階を追って講義を行った。加えて、数疾患のうち1疾患を講義実施後に、その内容を振り返らせて課題としてまとめ提出するよう指示した。 ③科目内容に苦手意識を持たせない工夫としては、講義後に必ず振り返りの時間を設ける、また、講義中にラウンドして一人一人に声かけを行い質問をうける、こちらから質問するなど、理解度の把握をしながら講義を進行させた。 ④講義内容を整理するための「ポイント整理」は、小テストと組み合わせることで、積極的に学習に取り組むように促した。また、小テストの成績を個々に知らせ、正答率の悪い問題は解説を行い、学習意欲を高めるように心がけた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は77点（±17.6）で、91%の学生が60点以上、68%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、理想的レベル（80点以上）に達した学生は55%だった。小テストの平均点は15/20点（得点率75%）、講義後の提出課題の平均点は9.6/10点（得点率96%）だった。 ②学生の到達度自己評価では、"自分なりに目標を達成した4.5"、"新しい知識など得ることができた4.9"、"事象を理解する視点や考え方を得ることができた4.6"であった。 ③授業の質評価では、"テストの評価基準4.7、課題の明確さ4.6、説明の理解しやすさ4.7"、そして、"質問を受ける機会を設けていた4.8"であった。 ④学習量の評価をみると1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が33%・38%、2～3回以上した学生が73%・82%だった。また、図書館利用率、インターネット利用率は90%だった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 大学で学ぶ生物学として、専門科目を意識した科目内容及び1年生を対象にした一般教養科目としてのカリキュラム上の位置付けは妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 上記に記載した学生の自己評価や成績の状況から、学生が学ぶ内容としては妥当であったと思われる。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるといえる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①今年度の授業改善として、興味関心を持たせる講義内容、また、苦手意識を持たせないような講義工夫を掲げたが、上記に記載した学生の授業評価、そして、「日常生活に特化した授業で役に立った」「身の回りのことについて知ることができた」などの学生意見から、今回の改善は、効果があったと考える。 ②特に、講義中にラウンドして、個々の学生の授業理解度を把握し、随時質問などを受ける機会を設けたことは、「一人で受講していても安心できた」との学生の意見もあり、学習結果につながったと思われる。加えて、課題を出したことで、講義を振り返る場となり、図書館、インターネット利用率も高いことから学生の主体的学習に繋がった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度から始まった3学科合同授業である。学科特性を踏まえて、医学知識を講義内容にいれるなど内容のレベルは高いものである。しかし、授業工夫により、講義への興味関心や内容の理解を深めるなど、学生の達成度状況・授業評価からみて、今年度の科目講義目標は、達成できたと考える。授業を欠席する傾向が認められる学生については、アドバイザーと連携し対処していく必要がある。

学科	栄養学科
氏名	本山 大輔

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（旧約聖書）	1	前期	必修	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、本学の建学の基礎となるキリスト教の聖典である旧約聖書についての授業であった。本科目では創世記を学ぶことにおいてキリスト教的創造論、人間の存在論を中心に理解を深めた。聖書の読み方から始まり、実際に授業で繰り返し聖書を読むことで聖書の文体に慣れていくことを大事にした。また一人で読まずにペアリーディングをすることで、聖書の読み方を相互に学べるように整えた。聖書のリーディングの後に、旧約聖書の物語をより深く理解するために動画をを用いた。加えて、創世記が示している人間の存在意義、働き、他者との関係性、現代的課題を理解するために、ワークショップを多用した。ワークショップを通して、コミュニケーション能力を高め、将来社会に出た時に、多様な人々とのコミュニケーションを取るために必要なスキルも身に着けさせた。ワークショップは生徒同士のコミュニケーションを深める機会となったと考える。講義の終了時に、クラスポートフォリオを記入させ、講義から学んだことをまとめさせることにより、より理解を深めるように試みた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績平均値は84であり、再試験の対象はいなかった。講義の内容を受講生は十分に理解し、また積極的な学びができた結果であると考えられる。授業評価アンケートにおいて知識理解4.3、事象は4.2ポイントであり高水準を得ている。自己達成度4.0ポイントとなっており、本講義から受講生が知識を得ることができたと理解される。一方で、専門分野との関係性においては(4)-(7)が3.9を下回っており、(10)に至っては3.4ポイントとなっており、栄養士という職業とキリスト教の紐づけが不十分であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は必須科目であるために、キリスト教に関心を持ってこの授業を受講しようとした受講生は0%である。キリスト教を学び意義については学生に十分に行き渡っていないという現実がここに示されている。本科目はチャペルや教会訪問と連動しており、チャペルの内容の充実や教会訪問での整えなどをより豊かにすることで、関心を高めることになるかもしれない。しかし、受講生の多く受講中に新たな知識を得、キリスト教に関心を持つ生徒も一定数おり、成績も高水準で維持されているので、授業の内容としては適切であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 自由記述がほとんどなかった。もう少し受講生に授業の内容について積極的に記述することを推進する必要がある。一方で前期授業の中で最も面白かったという評価もある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価として、最も高い評価されたのは(2)(3)(8)であり4.3ポイント前後である。特筆されることは(8)の「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」と多くの学生が評価をしていることである。一方的な講座になりがちな大学の授業において、受講生がこの項目を評価していることはアクティブラーニングが求められる記念の教育において評価されるべきことであると考ええる。他の授業の質評価は、(1)(4)(5)(6)が4.0ポイント以下であり、高水準の評価を得ている。これらの結果は、受講生にとっては本講義について積極的な評価をしていると言える。一方で、授業の準備においては、半数以上が予習の時間を設けていなかった。授業内で、聖書を読むなどの課題を出したが、短時間でこなせるものであり、課題をやったという感覚を受講生が持たなかったのかもしれない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	キリスト教、旧約聖書、創世記について基本的な知識を得ることについては概ね達成したと考える。また受講生自身がコミュニケーション力を高めることができたと評価しており、将来、栄養士などの職業に就いていくために必要な会話の力を高めることもできたように思える。もう一步、進んで受講生がクラスの中で主体的に発題するような講義ができれば、より受講生の授業への評価が高まると考える。講師自身の課題としては、受講生の「目標・職業選択」の項目をどうやって高めていくかということにつに尽きる。栄養学とキリスト教の結びつきを探究する必要がある。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	管理栄養士の必修科目のとして「健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系」の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。また、健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画では教科書等の予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。出欠アンケートで、まとめと質問を設け、学生の理解度を高めた。その結果、授業で内容を理解しようという姿勢が全授業を繰り返すに従って向上した。授講の理由は必修科目であるためが94%と多い。ただ、この科目に関心があると答えた学生が14%と低く、健康や生理学が基本となる学部でこの科目に関心が低いことは問題である。学生の各科目に対する位置付けがどのように形成されているか、専門家を育てる学科として考えるべき点と思われる。管理栄養士の必修科目のとして「健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系」の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。また、健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画では教科書等の予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は87±8.5点で，再試対象は4名であった。 全員が標準的レベルに達したが，理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達した者は30名（34名中、88%）であった。 目標達成できたと答えた総数は33人（54名中、94%）を示した。 「達成度」の平均値は全項目で3.4-4.1の間であり、評価は高かったと言える。（6）意欲を持てたが最も高く、（8）コミュニケーション場面が低い値であった。 「授業の質の評価」は全て平均が3.2-4.3でやはり高かったと考える。（1）評価基準の明確化（2）課題が明確化が高く、（4）意見の発表の機会の値が低い。 「学習量の評価」では、（1）準備なしが23人（76%）で半数以上は予習をしている。（4）課題以外の学習は11人が取り組んでいた。 「情報利用」では、（1）参考にしない13人（38%）、（2）計画を立てなかったが27（82%）と高く、シラバス利用9、オリテンに沿う8と低く、検討をしなければならない。 「図書館の利用」は13名、データベース利用7名、インターネット利用5名と、メディアを利用するものが多数で、図書館利用は少ないと言える。 欠席する者は少なく全員が積極的に受講していたが、今後、より関心を高め参加しやすい方法を考えたい。 また、教科書以外の資料はインターネットを利用し、配布やアンケートの回収もネット上で行うことができた。 自由記述の評価での記述が少なく、悪い評価は見当たらなかった。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性について 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めたことから、内容的には英語学科の学生にも妥当な内容であったと考えている。 ②D P, 行動目標からみての内容的妥当性について 成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高まれば、もう少し深く進める事も出来ると思う。 ③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多い中、「学習到達度の自己評価」は高く、知識取得できたことも授業目標に沿っており、人文の学生に妥当な内容と判断した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、予習を全くしなかった者が大半で残念な結果と言える。 毎回授業の復習、興味関心をアンケートしたことがこのような結果に結びついていないと思われる。 シラバスを参考にしなかった者、授業計画を立てなかった者を減らすことも今後の改善点である。 オリエンテーションの十分な説明をし心がけているが、シラバスの利用に影響しているかもしれない。 次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、理解度チェックでまとめと調べを提示し、学習を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。 授業過程を振り返って見たとき、予習課題の提示などで改善を図りたい。 以上から、毎回のねらいを具体的に提示し、毎時間に授業の内容について、理解度チェック、自己調べ、問題解答などを駆使したい。 授業評価から、学生の意見を取り入れ、更なる改善を試みたいと思う。

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この地球上に生命が誕生して、約38億年が経過し多様な生物の出現と絶滅を経て、現在は数百万種の生物が存在している。その生命進化における生物の一員としてのヒトを認識し、それ以外の地球上の生命体の多様な生き方を知ることは、意義あることだと考えられる。生命の持つ共通性は、近年、より深く追及されその意味が明らかになりつつある。これと並行し、生命の多様性にも注目が集まり、急速にその知識が蓄積されており、生命の共通性と多様性について理解を深めていくとを目的とした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①今年度の結果 本試験の合格者は32名全員合格であった。平均点は73.7±5.5点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）に到達していると考えられる。理想的なレベル（概ね80点以上）に到達した学生は6名いた。 ②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90％以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」、「学生が参加する機会」などについては、「少しそうでないと思う」以下が多い項目では20％程度あった。この科目は総合人間科学の知識の習得に重きを置く科目であるため、グループ学習のようなものを取り入れることも検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「学部共通科目の基礎教養科目」であり、選択科目である。生活するうえで、必要な或いは普遍的な身につけておく必要のある科目と考えているが、高校で習得した生物基礎すら記憶に残っていない学生もいたようである。しかしながら、平均点で標準的なレベルを超えていることから、内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたので、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が2.8と低かった。身近な現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることにより、予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学部共通科目の基礎教養分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度について定期試験の結果からほとんどの学生が標準的なレベルで取り組んだものと判断できることから、概ね目標をクリアできたものとする。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかったことは反省点ではある。しかしながら、教養的性格の強い生物学であるため、基本的には知識の習得に重きを置くべきと考えている。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目である。栄養学科の基礎科目である生化学のさらに基礎に位置付けられる科目である。したがって、化学の基本的事項の中でも特に生化学や栄養学を学ぶものにとって重要な化学の基礎的知識と化学反応に関する基本的な理論・法則を重点的に扱っている。特に生化学を学んでいく上で（私の講義を理解していく上で）必要な項目に焦点を当てて行っている。学生には、化学的な用語や化合物の定義、代表的な有機官能基の代表的な反応、触媒の定義と働き、酸化還元について、最低限の定義、理論および法則を身につけることが、特に今後生化学を学んでいく上で重要であることを強調し、指導している。 ②講義は、スライド中心に進めている。Classroomに投稿した配付資料は、主に用いたスライドから特に重要と考えられるものだけを抜粋して配布した。すべてを配ると講義をおろそかにする学生が逆に増えると考えていることが理由である。 ③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均は77点、受講登録者34名中出席不足のため受験資格を失った2名を除く32名が合格であった。90点以上が13名、うち3名は100点であった。80点台は7名であった。試験問題の難易度は例年と同じレベルで作成し、成績は過去数年の平均的なものであった。昨年度に引き続き本年度の1年生も講義に意欲的に取り組んでいた。昨年同様比較のおとなしい印象の学年であった。試験問題は、基礎的知識（化合物や代謝経路の定義等）と問う問題、基礎的な思考力を要する問題を併せて9割以上、やや高度な思考力を要する問題を若干の割合で出題した。本年度入学の学生が受講態度、意欲や積極性をこのまま高いレベルで4年間を過ごし、成長していくことを期待する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、総合人間科目、学部共通科目、選択科目である。基礎的かつ本質的なテーマに重点を置いており、内容的には妥当と考える。 ②DPでの位置づけは、知識理解を問う科目である。目標達成度は充分であり、内容的には妥当と考える。 全体としては、妥当な内容であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度は、数値上、良好な目標達成度が得られたと考えている。学生の受講態度は良好で、意欲もあった。今後もさらに意欲と積極性を発揮すること期待する。 本科目の講義内容は、講義のタイトルである「生活の中の化学」に鑑みると、生活や身の回りの事例等に則するという面を本年度は意識したつもりであったが、まだ不足していたと考えている。次年度以降は、タイトルに則した事例をもっと取り入れた内容にすることで、多くの学生にもっと親しみの持てる内容の講義にしていくつもりである。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度は、合格率、平均点とも良好であった。本年度は、達成度について特記することはない。本年度の学生の受講態度は、高評価に値するものであった。好成績は主に学生の意欲に追うところが大きいと考えている。このことが生化学Ⅰへとつながっていくことを期待する。次年度からも講義の内容に改良を加え、学生の意欲を高いレベルに維持していくことが課題と考える。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	栄養学科
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	当科目は栄養学科の学生にとっては必須の科目でもありません。受講動機を見ると「単位数の確保」が6割を超えていることから分かります。これまでの学生の英語力を鑑みて、非英語話者向けにリライトされたニュース記事を教材として授業を進めてまいりました。英語が得意でない学生が多いので、ベースも落として解説もなるべく初歩的なところまでを心がけモチベーションを下げないように注意をしました。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業態度や取り組みは評価できるものがありました。自由記述を見ても課題のノートへ取り組み、単語の復習などに取り組んでくれた様子が伺えます。期末試験の成績を見ると平均が5割程度で、再試験対象者も2名出てしまいましたので上記の判断といたしました。受講生の到達度自己評価の数値を見てもこの評価が妥当であると判断します。授業の復習はするようにと周知したのですが、結果（復習をまったくしなかったが28名中12名）を見ると復習していない学生が多いことも少し残念には思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は6割が「単位取得のため」と消極的で、3割弱が「関心がある内容である」と解答しています。到達度の自己評価も平均が3.8と低くはないものの、多くは英語に関心の薄い学生が多く受講していることを考えると、もう少し難易度を下げた方がいいかもしれません。授業中の理解度を見ても中1、中2レベルの英語力が身につけていない学生もいました。受講生の中になんか英語力に差があるのが現状です。ですが到達度自己評価を鑑みるとおおむね妥当性に問題はないと判断します。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価に関しては平均点、中央値ともに4点以上でしたので授業の進め方については大きな問題はないと判断しております。もっとたくさんの人とお話をしたかったという意見がありましたので、来年度は工夫をして受講生どうしのコミュニケーションの機会を増やそうと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	おおむね問題はありませんが、難易度の調整は必要かと思いました。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	福祉学科・英語学科・観光文化学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学期の始講と最終講に、体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果を体感し把握させた。 ②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。 ③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターで自己の運動量を把握させ、運動の理解と意欲を喚起した。 ④1および3について毎時間記録と評価を行い、学期末に集計して実習期間全体の自己評価を行い、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の自覚と運動量の関係が理解できるように努めた。 ⑤チームスポーツでは、入学直後であることを考慮し、チームが固定的にならないよう種目が変わる毎にメンバーを替え、可能な限り多くの人とコミュニケーションが取れるようにした。チームではミーティングを試合前後に行わせ、ゲーム戦略立案と実行方法、チーム内での個人の行動や役割のポジティブなあり方を意識した行動実行を促した。また、試合後には必ず良い点や悪い点、次の試合に向けての改善点(課題)などをチームミーティング後、記録用紙にまとめ意識化し、チームで活動するための必要な要因を考えさせ、意識させた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83点（SD8.7）であり、再試対象は1名であった。ほぼ平均点は標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものが62名（83名中、75％）と予想以上に多かった。 「達成度」の平均値は全項目で3.6-4.5の間であり、評価は高かったと言える。 「授業の質の評価」は全て平均が3.7-4.2でやはり良いと考える。（1）質疑の機会が少なく3.7だったが、それ以外は中央値が4.0と高いと考える。 「学習量の評価」では、（1）準備なしが54人（77％）となり、運動というのは意識がないと発生しないことがわかる。（4）課題以外の学習は32人が取り組んでいた。 「情報利用」では、（1）シラバスを参考にした42人（60％）、（2）計画を立てたが16人（23％）と高く、シラバス利用18人、オリテンに沿う22人と低く、検討が必要と考える。 「図書館の利用」は7名、データベース利用7名、インターネット利用7名と、メディアを利用していると思われ、図書館利用は少ないと言える。 欠席する者は少なく全員が積極的に受講していたが、今後、より関心を高め参加しやすい方法を考えたい。 また、授業以外の知識はインターネットを利用し、配布やアンケート上で行うことができた。 自由記述の評価での記述が少なく、悪い評価は見当たらなかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③受講動機で内容に関心がある学生が100%であった。「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は100%が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

学科	福祉学科・英語学科・観光文化学科
氏名	宮浦 崇

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	PCのある演習室での実施で、個人のスキルの違いによる進捗状況の差があまり大きくならないように個人演習での「つまづき」を最小化する授業内容となるよう心がけた。 開講当初に実施したアンケートから、受講者のPCスキルのスタートラインが高校までの学習経験の違いから大きく差があり、一層の習熟が必要な受講生がおおよそ3割程度いたことから、講義回の3回は、大学が示すICT活用のためのルール・規範などの情報に繰り返し触れながら、PC操作やメール送受信、キーボード入力などの基本的PC操作スキルの向上に焦点をあてた授業進行をおこなった。また非同期オンラインの授業を設定して、各自のペースで習熟をはかることができる授業進行を一部で採用した。 授業中に教室での進捗状況確認やアンケートから、高校の教科「情報」の履修において一定のスキルを身につけ、PC操作経験時間数が相当数こなした既に一定のITスキルのある受講生からは、内容が平易であり、高校や自分自身のスキルアップによって既習の内容が多くあり、それらに時間が割かれることへの不満の声が届いたが、この科目が目指す学習到達目標に、多くの受講生を導くために必要な時間・措置であったことを理解してもらうように説明をおこなった。そのような受講生に対しては、より高度なオプション演習や他の履修者に対するサポート役をお願いするなどして、その点について評価に考慮した。受講生の習熟に応じた課題開発や授業運営方法の検討など、今後も工夫していきたい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	提出された各回の課題、小テスト、説明課題、プレゼンテーション資料の作成と発表、最終レポートの作成課題の到達度（評価点）からは、シラバスに示した3つの到達目標（行動目標）は受講生の多くが達成されたものと見なすことができる。また授業アンケートの自己評価の結果に照らしても同様の結果であると判断する。 【参考1】シラバスに示した到達目標 目標1. メディアリテラシーに関する理論や重要な事柄について説明することができるようになる。 目標2. メディアから受け取った情報の妥当性を判断するための方策について説明することができるようになる。 目標3. 文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトを利用した情報発信ができるようになる。 【参考2】最終成績の得点分布割合（履修者15名） S：46%、A：25%、BおよびC：21%、D：8% 【参考3】最終成績を構成する各課題・提出物の評価ウェイト 最終レポート：30%、小テスト：20%、プレゼン課題および関連課題：20%、各授業回の提出物（miniレポートや"説明"課題）：30%					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	"メディアリテラシー"（情報を伝える媒体を使いこなす基礎的な能力・知識・態度）の習得を通じて、大学が掲げる「豊かな人間性と社会を捉える総合的視点と知識を身につけている」ことに寄与している。また、PC活用スキルを獲得しより高度化することで大学の掲げる「専攻する学問分野における基礎的知識を修得している」ことに寄与している。 本講義で重点的に指導をおこなったキーボード入力や情報発信（プレゼンテーション、パワーポイント活用）の熟達について、その必要性に気づき取り組んだ受講生が一定見られたことは、学習ツールの活用および表現のためのスキルアップのための基盤が形成されたこととして良い傾向であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	PC教室での演習授業において、受講生の習熟度の違いによる課題分量や難易度調整について、継続して改善方を検討していきたい。本年度も「簡単だった」「難しかった」両意見が二極化する傾向が見うけられたため、「難しかった」側への対応だけでなく全体的対応を心がけていきたい。 大学入学までの段階で極端にPC利用経験が浅かったりキーボード操作に不慣れな受講生については、本年度採用した自分のペースで学習をすすめる非同期オンライン方授業（オンデマンド授業）により、各自のペースで学習をすすめてもらえるよう課題内容や講義構成を調整したが、アンケート等ではこのことについて大きな不満や履修上の困難等ネガティブな言及は見うけられなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終レポートや各回の提出課題や履修者アンケートなどから、本講義で目指した到達目標（行動目標）は概ね達成できたものと考えている。採用した非同期オンライン授業（オンデマンド授業）については、学生の全体の受講スケジュールなどを確認しながら、課題の負荷調整の必要を認識した。このほかにも上記で示した課題などに留意しながら、授業改善をすすめたい。

学科	福祉学科・栄養学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	109

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	科目名称の通り、西南女学院とキリスト教との関わりに重点を置き、オムニバスで講義を行った。西南女学院の歴史的転換点においての内部での議論やその後の方向性について講義出来る方々を厳選し、キリスト教の日本への伝来から西南女学院を創立・発展させた宣教師やクリスチャンの働きについてまで8回にわたり紐解いた。宗教主任補佐のラス・ボーグ先生は本学院の歴史的研究をされており、アメリカに現存する貴重な資料をもとに、草創期の宣教師の働きについて3回にわたる講義を担当された。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の出席率は全ての講義時間において各学科で90%を超えており、出された回答は熱心にかかれ、講義の内容も十分に把握されていた。講義者により多くの画像が配信されたため、印象深い回答がほとんどであった。したがって大部分の学生の成績は優、あるいは秀であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP：この科目は総合人間学の必須科目であり、本学の寄付行為や建学の精神、また、大学の設置趣旨の最初の項目に相当し、CP上妥当であると考ええる。 DP：この科目の目標は①西南女学院の歴史を知り、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深めることができる。②設立者や宣教師たちの精神と働きを学び、「西南女学院生」としての自己形成を深めることができる。③キリスト教に基づく女子教育の意義を理解し説明できる、であり、DP1-1とDP4-1に相当しており妥当と考える。 上記より、内容的妥当性に問題はないと思われる。 なお、全学科の到達度自己評価の平均値は3.8で、自由記述からも特に問題点は見られなかった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、提出物の評価基準、学習範囲や課題、理解しやすさの平均は4.0を超えていた。大人数授業のため学生参加の機会、質疑応答の機会提供が難しいが、今後は学生が発言できる機会を積極的に設けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	大人数の対面授業ではあるが、どの学科の学生も意欲的に学ぶことができた。今後も、学生が本学の歴史や特色を十分に理解した上で、それぞれの専門科目に取り組み、西南女学院生としての自己形成の土台を築くことができるよう、内容を工夫したい。

学科	福祉学科・栄養学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こころと人間	2	前期	選択	はい	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	例年効果を感じている方法を使用した。毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「質問の回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく先生の人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎年の課題であるが、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いので今年も試みたが授業アンケートの結果からまだまだ改善されていないと言える様である。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後さらに試行継続してみたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	年度当初の学生に提示したシラバス上の「期待した行動目標」は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわえたい。睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。

学科	福祉学科・栄養学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実用英語コミュニケーション	2	前期	選択	いいえ	64

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This was the first time for me to teach this class in this faculty. Even though the students were in Year 2, their English levels were generally low because this is not their major. Rather than using a textbook, I opted for a task-based approach using worksheets that I prepared. The students were required to keep these in a portfolio which I collected and assessed at the end of the semester. Each class focused on one topic for which I scaffolded by teaching vocabulary and grammar. The students then completed a series of tasks to reinforce the learning.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment for this class was carried out in a number of ways: 1. Ongoing assessment of tasks and activities completed each week, 2. Two presentations completed during the semester, and 3. A final performance test in the final class of the semester. All students passed the course except one student who failed due to non-attendance. The average grade was 78.67% with a standard deviation of 20.15. Grades ranged from 60% to 93%.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	As this course revolved around topics taught using a task-based approach, knowledge and understand were vital to getting the most out of the classes. Generally the students worked hard at this, despite having deficiencies in basis English knowledge, so I felt that DP1 was achieved. In addition, because lots of problem solving and critical thinking activities were included, I believe that DP5 was also achieved.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	I don't believe I am teaching this course in 2025, but if I was, I would generally run the course in the same manner, using materials that are teacher-created based around topics in a task-based approach to learning. I would reformat the portfolio as it was discovered at the end of the semester that a few students hadn't saved their work.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	Again, if I were teaching this course next year I would make a few changes to the assessment procedures. I don't think this year was transparent enough, so I would utilise the assessment tools in Google classroom more. Then the students could clearly see that assessment is ongoing and could monitor their own grades more.

学科	福祉学科・栄養学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実用英語コミュニケーション	2	前期	選択	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This was the first time for me to teach this class in this faculty. Even though the students were in Year 2, their English levels were generally low because this is not their major. Rather than using a textbook, I opted for a task-based approach using worksheets that I prepared. The students were required to keep these in a portfolio which I collected and assessed at the end of the semester. Each class focused on one topic for which I scaffolded by teaching vocabulary and grammar. The students then completed a series of tasks to reinforce the learning.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment for this class was carried out in a number of ways: 1. Ongoing assessment of tasks and activities completed each week, 2. Two presentations completed during the semester, and 3. A final performance test in the final class of the semester. All students passed the course except one student who failed due to non-attendance. The average grade was 83.16% with a standard deviation of 18.74. Grades ranged from 64% to 99%.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	As this course revolved around topics taught using a task-based approach, knowledge and understand were vital to getting the most out of the classes. Generally the students worked hard at this, despite having deficiencies in basis English knowledge, so I felt that DP1 was achieved. In addition, because lots of problem solving and critical thinking activities were included, I believe that DP5 was also achieved.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	I don't believe I am teaching this course in 2025, but if I was, I would generally run the course in the same manner, using materials that are teacher-created based around topics in a task-based approach to learning. I would reformat the portfolio as it was discovered at the end of the semester that a few students hadn't saved their work.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	Again, if I were teaching this course next year I would make a few changes to the assessment procedures. I don't think this year was transparent enough, so I would utilise the assessment tools in Google classroom more. Then the students could clearly see that assessment is ongoing and could monitor their own grades more.

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科・福祉学科・栄養学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健福祉学入門	1	前期	必修	はい	204

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年生前期に配置された必修科目である。保健福祉学部への導入科目となっている。看護学科、福祉学科及び栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。 受講動機として、「必修科目である」が100.0%となっており、「関心のある内容である」は16%となっており、初学者である受講生にはシラパスのみでは、授業の意図する部分については理解されにくいことが考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、89.5点、再試対象者は3名であった。98.5%が標準的レベルに達し、96.0%理想的レベルに達した。 到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.4、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」が4.2、「事象（支援、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」「職業選択の参考になった」が4.1であり、本科目の教育目的は一定の成果が出ていると評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、保健福祉学部の教育を学ぶにあたっての必修の導入科目である。 到達度自己評価および最終的な成績評価からも、科目の目的は果たしていると判断でき、内容的にも妥当であると考え。 ②DP行動目標からみでの内容的妥当性 知識理解、意欲関心及び態度に位置付けられた科目である。知識理解は97.4%、関心意欲は89.0%、態度は82.0%であり、概ね内容的には妥当であると考え。自由記述においては、他科の先生方の講義がこれから看護を学ぶ上で参考になった等の意見が寄せられた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」が4.4、「説明は理解しやすいものであった」は4.0であった。7名の教員によるオムニバス形式の講義により保健福祉学への導入科目としての役割を概ね果たしていると考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の達成状況については、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は、概ね達成できていると評価できる。 学生が4年間の学びのスタートして、保健福祉学への理解と関心を高める科目としての目的を果たしてきたが、次年度以降、各学科における学問導入として新たな段階へ発展することを期待したい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科・福祉学科・栄養学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	1. 中国語入門の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の50.0%を除いて、③「関心のある内容である」は67.0%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数が7名で、語学の初級としては授業しやすい環境だと思います。学生一人一人に対して十分に指導が行き届くことができました。 3. 「コミュニケーション力や表現力を高めた」は4.3の数値で、学生の意見や表現力が十分に到達したことが伺えます。今後の授業において、このままの状態を維持し続けて、学生間の会話ができる場面を増やしていくことに工夫したい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	1. S評価は2名、A評価は1名、B評価は2名、C評価は1名、評価不能は1名で、最終的な成績の平均値は「80.3点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル（定期試験及び平常点の総合として80点以上）に達していた。 2. （DP-1)の知識理解と（DP-5）の「自分が学ぼうとしている専門分野について、的確に判断する力を得ることができた」は3.5の数値からみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。 4. 自発的学習については、自ら進んで取り組んだのは5名おり、また中国語の動画アプリやネットに関心のある内容を自ら調べて学習することは評価するべきです。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、①「自分なりの目標を達成した」は平均点4.3の数値、②「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.7の数値、③「専門分野について、深めたい意欲を持つことができる」は4.2の数値であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 「授業の質の評価」について、「自分の意見をまとめ、話し合う発表するなど学生が参加する機会が作られた」は4.2の数値、また「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」は4.2の数値で、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2. 「授業の量」については授業外の学習は週に2回ほどが半数以上です。このままの状態を維持し続けてほしいです。 3. 「図書館やインターネット等の利用」は、授業関連な内容はあまり利用しないことが見られます。今後、授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることをもっと学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	1. 国語入門は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を身につけられるよう、養成していきたい。

学科	看護学科・福祉学科・栄養学科
氏名	韓 京我

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	はい	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①今回の受講動機をみると、「関心のある内容である」67%や「単位数を確保する」48%が高い割合を占め、特に授業内容への興味が強い受講者が多いことが明らかであることがわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組みたい。②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。その項目から受講動機、韓国語学習経験、知りたい事を把握した。③毎回小テストと会話練習を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。④昨年度に示した改選計画では、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由に「どのようなことをしたらいいか分からなかったから」もあったため、これについて復習項目と次回講義の予告をする事で自習を促した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82点であり、再試験対象は8名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは、91名だった。目標別に見ると、知識理解に関しては82%、機能表現は91%であった。知識理解では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また機能表現では、文字読み取りテスト、挨拶テストと自己紹介テストの実施で、「知識を新たに得ることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で高い満足度が見られ、講義の重点を置いている点と学生の満足度が一致する結果が得られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的に妥当性があると考えられる。②DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。③まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。また韓国語の発表の時間や会話の機会などコミュニケーションを図れるよう努めた。最終テストでは全員の平均点が高く、語学の基礎的レベルには十分達したと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと考える。

学科	看護学科・福祉学科・栄養学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	214

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を6団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということを、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は、休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させ、次の時間に必ずフィードバックをした。 なお、今年度も複数学科合同講義で、多人数かつ少々リアルに欠けるところもあったかもしれないが、学生たちのリアクションペーパーから、また外部講師の先生方の力強いご協力により、十分な教育の提供ができたと思われた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、とにかく楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒に行って、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考えられる。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師（ゲストスピーカー）の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、対面にて、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	看護学科・福祉学科・栄養学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	はい	82

2. 観点・D P上の位置

該当に○	知識理解（D P 1）	思考判断（D P 2）	意欲関心（D P 3）	態度（D P 4）	技能表現（D P 5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、保健福祉学部の3学科（看護学科、福祉学科、栄養学科）による合同授業である。受講動機を見ると、「単位数を確保する」（75.4%）が最も多い状況にあり、学習への動機はやや低いことが伺える（「関心のある内容である」は49.1%）。授業内容は、アクティブ高齢者に対する支援について、講義（3コマ）とP B L（事例検討5コマ）を行うものであり、特にPBLは3学科混成によるグループワークを実施している。 授業では、介護保険制度の概要について担当し、他学科の学生も内容理解が深まるよう、解説方法や提示資料を工夫した。また、P B Lでは5つの班を担当し、ディスカッションや合意形成などが円滑にできるよう側面からサポートした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（D P 1）	思考判断（D P 2）	意欲関心（D P 3）	態度（D P 4）	技能表現（D P 5）
	達成された	達成された		達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	各D P項目の達成度について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（D P 1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができてた」（わりにそうだと思う40.4%、かなりそうだと思う52.6%）となっており、目標を達成できたと考える。「意欲関心」（D P 3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う49.1%、かなりそうだと思う43.9%）であり、これも目標を達成できたとと言える。「態度」（D P 4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う43.9%、かなりそうだと思う36.8%）であり、目標をある程度達成できたとと言える。 以上、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価結果から、本科目の教育目標は全体として達成できたと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①D P 上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価の結果から、全体として教育目標は達成したと判断でき、本科目のD P 上の位置づけに問題はないと考える。 ②C P、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は保健福祉学部（3学科）の学生が各分野の専門性をもとに協働でP B Lに取り組むものであり、本科目のC Pおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの「学習量の評価」では、授業の予習0回が87.7%で、復習0回が84.7%となっていた。また、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」は、「していない」（86.0%）であった。本科目はP B Lがメインとなっており、学生の意欲と主体的な学習態度が特に求められ、この点では課題が残ったと言える。今後は予習・復習のポイントを具体的に提示するなどの工夫が必要と思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標は達成されたと判断できたが、学生の主体的な学習態度の涵養という点では課題が残った。本科目は、保健福祉学部3学科による合同授業であり、本年度の成果と課題を担当者間で十分に共有し、次年度の授業運営に臨みたい。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	全学科
氏名	前田 淳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
経済学入門	2	前期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	◎教材としてのスライド（パワーポイントのファイル）を前もってWeb上にアップロードし、受講者はそれを事前にみて予習するよう、シラバスで促した。 ◎受講の動機として一番多いと予想された「関心のある内容」に応じるために、アンケート結果の分析手法など身近な話題を盛り込んだ内容を準備した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	◎学生の「到達度自己評価」では、「自分なりの目標を達成した」が平均値3.4、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が3.8とまずまずの結果であった。 ◎学習量の評価としての予習・復習の時間が少ない結果となったので、今後は課題を増やすなどの工夫が必要である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	◎本科目は、保健福祉学部・人文学部の全学科むけに提供されている。その意味で、各学生の専門分野の学習にとって、基礎となる知識を提供する役割がある。 ◎「到達度自己評価」の「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値が3.7となっており、上記目標をやや達成できたといえる。 ◎「到達度自己評価」の「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値も3.7とまずまずではあるが、他の科目との関連からいっても、さらに高めることが大切と思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	◎毎回の授業の最後に実施している「ワーク」（練習問題）およびその解説については、講義内容の理解を深めるうえで非常に有効、との中間評価を得ているので、今後も継続し内容を充実させたい。 ◎「授業の質評価」の項目「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」については、平均値4.0となっており、レポートの内容を丁寧に説明・周知した結果といえる。 ◎授業アンケートの「自由記述」に、「スライドの文字数が多すぎます」とあったので、改善すべきと考える。文字を大きくして教室の後方からも見やすくする予定。 ◎学生の予習・復習の時間が非常に少なかった点は、今後大いに改善の必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	◎授業の内容と進め方については、おおむね適切であったと思われるが、基礎的な科目としての位置づけ上、学びを深めたいとの意欲を学生がさらに強く持つように心がけたい。 ◎予習復習の時間を増やすような工夫が今後は必要である。自宅学習用の課題を準備して配布する、などに取り組みたい。 ◎教室環境に応じた適切な文字数・文字の大きさとなるよう、スライドを修正する予定。

リフレクションカード 2024年度前期

学科	全学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の技と文化	3	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの1. 受講動機では選択率（％）が高い順番で示すと、④単位数を確保する（63）、③関心のある内容である（37）、②資格取得に必要である（16）、①必修科目である、⑥友人が履修しているが同数で（11）、最後が⑤GPAをあげる（5）と続く。④を除いては説得的な動機である。外部講師には予習課題として30分程度を学習が必要なものを依頼していたが、5人中4名からはそれが得られた。外部講師の話を聞いて終わりではなく、ある程度の知識の枠組みを事前に理解しておくことを目指した。しかしながら、学習量の評価では、予習、復習がゼロが、それぞれ9名、10名おり、なかなか学習時間にはつながない現状がある。予習のチェックを導入したい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価の割合を％で示すと、A（31）、B（48）、C（20）、J（6）となる。J（放棄）が2名であり、対面授業開始時から、次第に減ってきている。到達度自己評価は、10項目の平均は3.83である。PPT、ポスター発表、レポートと成績の評価区分を分けており、とにかく提出してもらえるように指導をしている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	3年前期の授業であり、中心は3年生である。3年前期に設定されている総合人間科学の授業であり、これまでに総合人間科学、専門科目を受け続けてきた成果を受けてのレポート、ポスターセッションなどの発表を体験する。この時期にこの科目を設定していることは妥当であるとする。講義を理解し、まとめ、発展させて発表する力を養成するためには、この時期に当科目を設定していることは合理的である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	成績対象者35名、授業評価アンケート回答者19名である。アンケートの記述では、学習量の評価(4)授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由に14件あった。カテゴリー訳をすると、1. 授業課題で十分だった(7名)、取り組み方が分からなかった(2名)が多い項目となる。 4. 学習量の評価(4)授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習では、5件あり、企業について調べた(3名)、地域のことについて調べるようになった(1名)、外部講師の説明したことや、興味のある店について自己学習を行った(1名)である。7.担当教員への意見が3名あり、1.PPT、発表、レポートと3つあるのは大変だった。PPT を作成せずに初めからポスターを作成しそれを写真に撮って共有するといった。2.課題が多すぎるように感じた。また、授業中の説明があまりよく分からなかった。3.課題のレポートは発表を踏まえた感想文とかにもして、レポートもって1単位にしては少し過酷でした。しかし、いい機会になりましたとある。1の提案は次年度から取り入れたいと思う。2については、よりわかりやすい説明を心がけたいと思います。説明が林の説明なのか、外部講師の分なのかは判断できませんが、外部講師にも例年、授業依頼時から学生にわかりやすい説明をしていただくように何度お願いをしています。授業の質評価では5項目平均は3.76である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	2018年度開始カリキュラムの3年次の授業であり、2020年度が初回で、今回で5年目である。コロナ後の対面授業としては、一つの完成形を迎えたものと理解している。課題が多いとの意見もあるが、対面授業での開始年度からすると非常に減ってきている。それでも課題が多いという印象を一部の学生に与えるのは、8回の授業が、主に前期の授業回の後半にあることで、他の授業のレポート、試験の時期と重なることから来ていると推定される。オリエンテーションでは、成績評価には客観的なエビデンスが必要であり、それがレポート、ポスター等になることを丁寧に説明している。その説明を更に丁寧に必要がある。